綾部市エネルギー環境基本計画

資　料　編

2024(令和6)年

綾部市

目 次

資料1　綾部市ゼロカーボンシティ宣言文 1

資料2　計画の期間 2

資料3　前計画の取組状況 3

1　綾部市地球温暖化対策実行計画（区域施策編） 3
2　第3次綾部市環境基本計画 5

資料4　綾部市の現況 12

1　市の特性と課題 12
2　市の概況 14
3　脱炭素社会に関すること 16
4　循環型社会に関すること 31
5　気候変動への適応に関すること 32
6　自然共生社会に関すること 37

資料5　アンケート調査概要 39

1　アンケート調査の概要 39
2　市民アンケート調査結果概要 39
3　事業者アンケート調査結果概要 43

資料6　ワークショップ概要 47

1　開催概要 47
2　市民ワークショップ 48
3　綾部高等学校・綾部市環境市民会議ワークショップ 50

資料7　国・府の基準などで配慮を要する区域の詳細 52

資料8　計画策定の経緯 62

1　会議等開催状況 62
2　綾部市環境審議会委員名簿 64

資料1　綾部市ゼロカーボンシティ宣言文

綾部市は、2021（令和3）年9月議会定例会において、2050（令和32）年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現に挑戦することを宣言しています。

綾部市「ゼロカーボンシティ宣言」

ものづくりのまちとして発展してきた綾部市は、全国に先駆けて世界連邦都市宣言を行い、世界の恒久平和と地球環境保護を希求するとともに、地域特性を生かしながら、農林業の振興や観光・交流、移住・定住を推進してきました。この地域が有する貴重な歴史的・文化的な資源や自然の恵みは、次代に確実に引き継いでいかなければなりません。

しかし、私たちが当然のように享受してきた自然環境は、人類の活動により排出される温室効果ガスの影響によって変わりつつあります。地球温暖化の進行に伴い、近年台風の巨大化や集中豪雨などの異常気象が多発し、私たちの安全・安心な生活が脅かされようとしています。

これらの課題を解決するため、2015 年に合意されたパリ協定では「産業革命前からの平均気温上昇を 2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が広く共有されました。また、2018 年に公表された IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標を達成するために、2050 年までに CO_2 排出量を実質ゼロにする必要があると示されています。

綾部市は、国際社会の一員として、SDGs の実現に向けた動きに呼応し、幅広い分野で CO_2 排出削減に先進的に取り組み、一人ひとりの幸せをみんなで紡ぎながら持続可能な社会を目指します。

先人が守ってきた私たちの大切なふるさと綾部を未来に繋いでいくため、地域資源の最大限の活用と、市民・事業者などの多様な主体との連携により、2050 年までに CO_2 排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現に挑戦することを宣言します。

令和3年9月6日

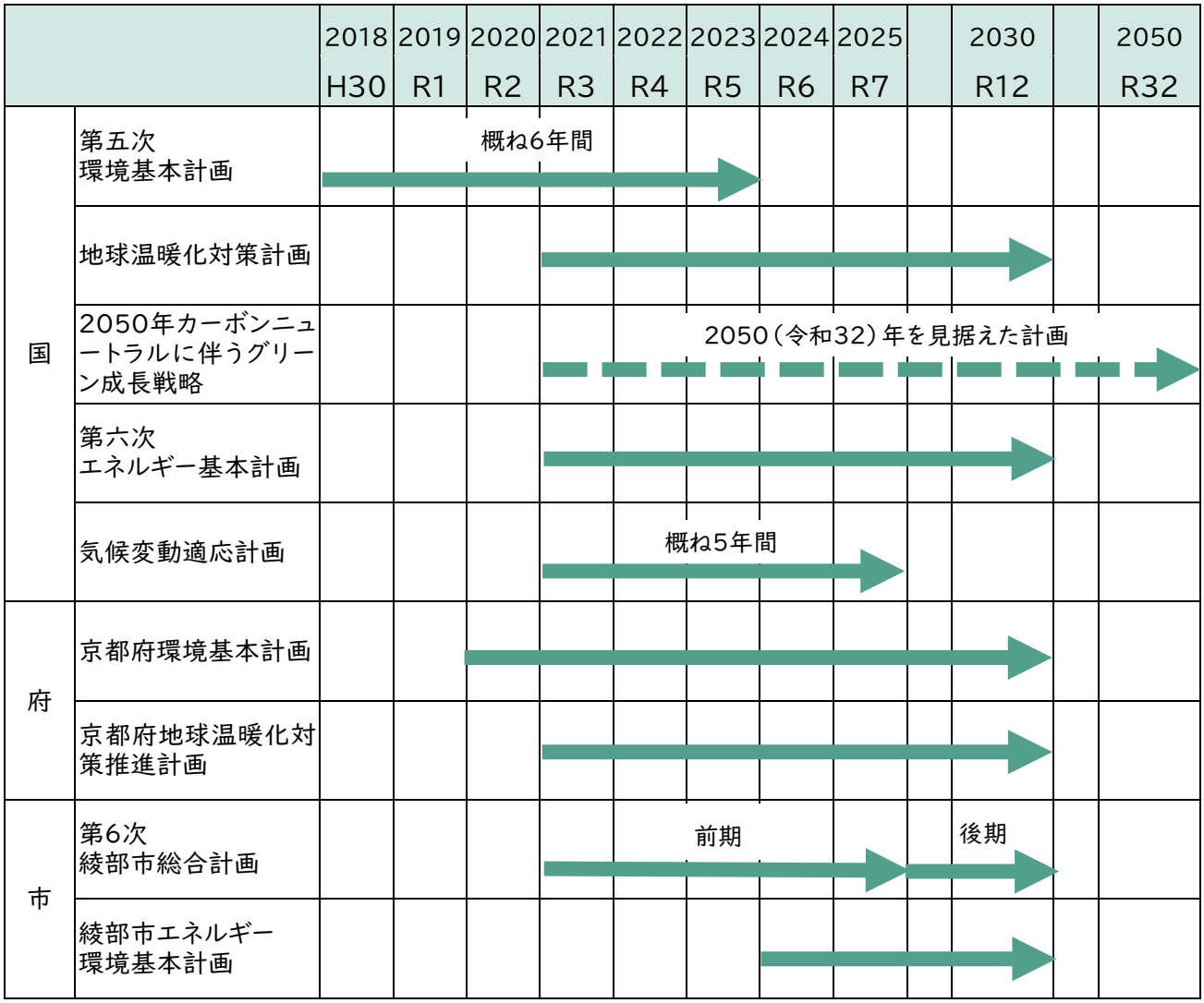
綾部市長　山崎孝迪

一人ひとりの幸せをみんなで紡いで
実現できるまち… 綾部

資料2　計画の期間

国・府・市の関係計画の計画期間は以下のとおりです。

【国・府・市の関係計画の期間】



資料3　前計画の取組状況

1　綾部市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

（1）計画の概要

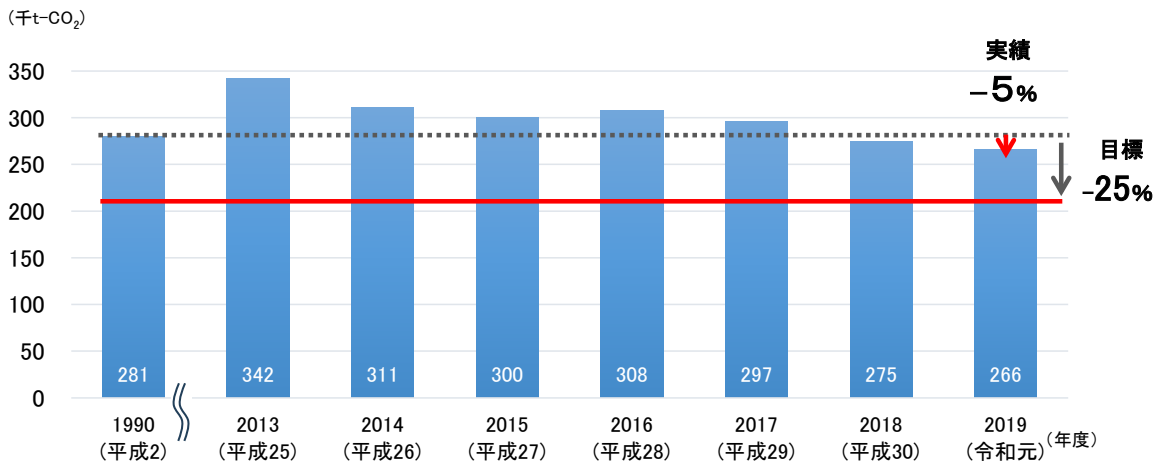
2016（平成28）年3月に策定した「綾部市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」では、国、京都府、近隣市町と整合を図り、基準年を1990（平成2）年度として、温室効果ガスを2020（令和2）年度時点で25%削減、また、2025（令和7）年度時点で32.5%削減する目標を示しています。

（2）取組状況

2019（令和元）年度現在、綾部市の温室効果ガス総排出量は約266千t-CO_2となっており、基準年度である1990（平成2）年度比で約5%減少となっています。

これは、2011（平成23）年度に発生した東日本大震災の影響による原子力発電所の運転停止や化石燃料の消費増加などが影響して温室効果ガスの排出量が増加したこと等が考えられます。

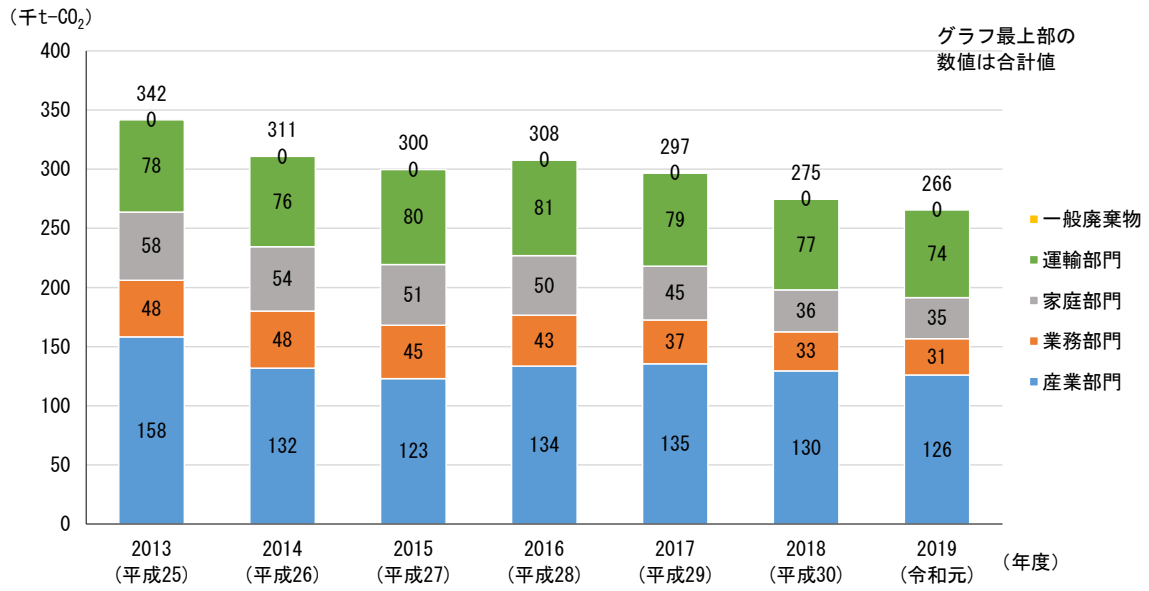
温室効果ガス総排出量の推移をみると、2013（平成25）年度以降、節電の普及や電力・ガス小売の自由化が開始されたことなどにより減少傾向にあります。また、部門別の推移をみると、2017（平成29）年度以降はどの部門も減少傾向にあります。



【温室効果ガス排出量の推移】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

※1990（平成2）年度値については、綾部市脱炭素ロードマップの算定方法に準拠し再算定しています



【部門別温室効果ガス排出量の推移】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

※四捨五入の関係で、図中の数値の合計が一致しない場合があります

2 第3次綾部市環境基本計画

(1)計画の概要

2019(平成31)年3月に策定した「第3次綾部市環境基本計画」では、基本目標「美しい山河のもとで ゆったりやすらぎのまち 綾部」の実現に向けた具体的な方向性として、4つの環境像を設定しています。

【計画の施策体系】

基本目標	環境像	施策	
美しい山河のもとで ゆったりやすらぎのまち 綾部	1「水と緑そして星空のまち」に向けて	(1) 清流を守り、水との触れ合いを保つために	1 生活排水対策
			2 事業所排水対策
			3 水質汚濁に関する監視・指導等
			4 親水空間等の整備
			5 広域的取組と啓発
		(2) 美しい星空と、澄んだ空気のために	1 大気汚染防止対策
			2 ごみの野焼き対策
			3 澄んだ大気維持のための啓発
		(3) 健康に暮らせる生活環境の維持のために	1 騒音・振動、悪臭防止対策
			2 有害化学物質対策
		(4) 緑を守り、美しく快適なまちづくりのために	1 ゆとりと潤いのあるまちづくりの推進
			2 緑化の推進
			3 緑化思想の普及啓発
		(5) 自然と共生するために	1 貴重な自然の保全
			2 野生生物との共生の確保
			3 生物多様性の保全
			4 自然観察会の実施
			5 景観の保全
			6 歴史的文化的遺産の保全
			7 自然災害に強いまちづくり
		(6) 豊かな自然の恵みを活用するために	1 農業の振興と環境保全
			2 林業の振興と環境保全
			3 内水面漁業の振興と環境保全
			4 地域資源の活用と発信
	2「循環と調和のまち」に向けて	(1) 循環型社会の形成と推進のために	1 ごみ減量の推進
			2 地域でのごみ減量の取組の推進
			3 事業者の廃棄物対策
			4 不法投棄対策
			5 一般廃棄物処理施設の整備等
			6 一般廃棄物の広域処理
			7 ごみに関する情報発信と啓発
			8 災害ごみの取り扱いについて
	3「地球環境を守るまち」に向けて	(1) 地球環境の保全に向けて足元から行動するために	1 地球温暖化防止対策
			2 再生可能エネルギーの普及促進
			3 省エネルギーの推進
			4 世界の森林の保全対策
			5 グリーン経済の推進
			6 地球環境問題に関する情報発信と啓発
	4「参加と創造のまち」に向けて	(1) 環境への関心を高め、参加するために	1 学校教育における環境教育の推進
			2 地域社会における環境教育の推進
			3 環境情報システムの構築
		(2) 協働による環境保全活動のために	1 環境保全団体など市民の自主活動への支援
			2 環境保全活動への参加の促進と活動支援
			3 環境マネジメントシステムの導入と推進
			4 「平和と環境の日」関連行事の開催と啓発
			5 綾部市環境基金

資料:第3次綾部市環境基本計画

（2）取組状況

①数値指標

計画内で定められている21の指標のうち、2022（令和4）年度において目標を達成したのは9項目となっています。

イベント等への参加者数に関する数値指標については、新型コロナ感染症の影響で開催が困難な状況であったり、参加者数が回復しなかったこと等の影響で、例年より少ない実績となっています。

：目標達成

項目番号	項目	基準値	実績値				目標値
		2017年度（H29年度）	2019年度（R元年度）	2020年度（R2年度）	2021年度（R3年度）	2022年度（R4年度）	2023年度（R5年度）
1	市内河川のBOD環境基準適合率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
2	汚水処理人口普及率	80%	83.9%	84.5%	85.6%	86.0%	86%
3	大気汚染に係る環境基準達成率	75%	75%	75%	75%	75%	100%
4	天体観望会の参加者数（年間）	1,028人	1,010人	621人	595人	1,139人	1,150人
5	水道水の総トリハロメタンの水質基準適合率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
6	河川のpH環境基準達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
7	緑化普及イベント参加者数（年間）	14,297人	13,379人	6,117人	6,454人	6,226人	15,000人
8	有害鳥獣侵入防護柵設置延長（累計）	579km	620km	655km	707km	757km	675km
9	エコファーマー認定件数（年間）	10件	2件（新規） 19件（更新）	1件（新規） 38件（更新）	3件（新規） 17件（更新）	0件（新規） 10件（更新）	10件
10	森林経営計画策定件数（年間）	1件	2件	2件	1件	2件	1件
11	間伐面積（年間）	209ha	291.52ha	177ha	220ha	198ha	300ha
12	定住世帯数 定住サポート総合窓口扱い(累計)	209世帯	242世帯	273世帯	311世帯	350世帯	300世帯
13	可燃ごみ（家庭系）収集量（年間）	5,568t	5,367t	5,182t	5,137t	5,021t	5,300t
14	不燃ごみ（家庭系）収集量（年間）	908t	930t	1,016t	951t	947t	650t
15	団体等による紙類の回収量（年間）	1,135t	976t	779t	803t	858t	1,500t
16	あやバス乗車人数（年間）	205,670人	197,412人	159,454人	154,879人	165,983人	218,000人
17	補助を行った住宅用太陽光発電システムのkW数（累計）	2,217.89kW	2,475.52kW	2,572.79kW	2,745.47kW	2,897.25kW	2,698.00kW
18	環境をテーマとした講座の参加者数（年間）	725人	594人	121人	203人	232人	750人
19	モデルフォレスト活動実施事業所数（累計）	3事業所	3事業所	3事業所	3事業所	3事業所	4事業所
20	環境美化クリーン大作戦参加者数（年間）	8,312人	7,823人	中止	中止	4,421人	8,400人
21	世界連邦推進綾部市小・中学生ポスター・作文コンクール応募数（年間）	456点	399点	223点	303点	400点	460点

②施策の実施状況

計画に記載されている施策については、以下のような事業や取組を推進しています。

【基本目標別取組状況(1/5)】

環境像		目標	主な取組内容
Ⅰ	「水と緑そして星空のまち」に向けて	清流を守り、誰もが水と触れ合えるまち	・公共下水道事業など、地域の実情に応じた事業手法により、水洗化区域の拡大を図り、2022(令和4)年度末での汚水処理人口普及率は86.0%となりました。 ・上林川を守る会が実施する「農業濁水を流しません」のぼり旗の掲出などを支援しました。 ・工業団地等に立地する事業所が公害防止・環境保全協定に基づき報告する水質測定結果により、監視を行いました。また、綾部工業団地内4か所で年2回、水質調査を実施しており、環境基準を達成しています。 ・家畜排せつ物の適切な管理、処理及び排水対策について、中丹家畜保健衛生所、府広域振興局と共に畜産業者の現地確認を行いました。 ・子どもたちの自然体験や野外学習、地域住民の憩いの場としての親水公園づくりを進めるため、由良川かわまちづくり計画策定に向け河川国道事務所など関係者と協議しました。 ・由良川の水質保全や河川生態系の維持に向けて由良川水質汚濁防止連絡協議会に参画し、京都府や関係市町との情報共有・連携に努めました。また、由良川、上林川、八田川、犀川、伊佐津川においては京都府が月1回水質調査を、中小河川等においては、市が年2回水質調査を実施しており、環境基準を達成しています。 ・上林川を守る会や京都府立綾部高等学校が実施する水生生物調査を支援しました。
		澄んだ空気の中で、美しい星空が見渡せるまち	・大気汚染防止法や京都府環境を守り育てる条例等に基づき、京都府と連携し監視を行いました。 ・ごみの野焼き行為の通報を受けた際、行為者に対して現場で直接指導などを行いました。また、廃棄物の正しい処理方法や野焼きの禁止について広報紙などで周知しました。 ・アイドリング・ストップ、エコドライブについてポスターの掲出等で啓発を行いました。 ・天文館において、毎週末(金～日曜日)の晴天時に、夜間天体観望会を開催。2022(令和4)年度においては84回開催し1,139人が参加しました。
		健康に暮らせる公害のないまち	・騒音規制法や振動規制法などに基づき特定施設設置等の届出に対応するとともに、事業者に対して騒音・振動の防止対策について指導を行いました。 ・綾部工業団地等の事業所において、公害防止・環境保全協定に基づく環境測定の報告等により監視を行いました。 ・工場・事業所等による悪臭への対策について、悪臭防止法や京都府環境を守り育てる条例に基づき、関係機関と連携し、監視を行いました。

【基本目標別取組状況（2/5）】

環境像		目標	主な取組内容
Ⅰ	（つづき）「水と緑そして星空のまち」に向けて	緑の中で快適な市民生活を営むことのできるまち	・公園施設長寿命化計画に基づき、都市公園の遊具の更新を行いました。また、通常の公園管理については、市民との協働の取組を推進し、公園の活用と保全に努めました。 ・里山交流研修センターやあやテラスの整備において、都市における環境保全や景観形成、市民のレクリエーション利用や防災の観点からオープンスペースを確保しました。 ・綾部市環境市民会議が実施するあやベグンゼスクエアでの木陰の小道整備事業を支援しました。また、京都府綾部工業団地の立地企業の景観保全協定に基づき、積極的な緑化を促しました。 ・緑化思想の普及啓発として、公益社団法人綾部市シルバー人材センターが開催する由良川花壇展、菊花展、葉ぼたん展等を支援しました。 ・学校や地域で結成された緑の少年団において、緑の募金などを活用して、野外活動の支援を行いました。
		自然と人間が共生するまち	・市が行うため池の改修工事において、水たまりを残すなどして生態系に配慮した工事を行いました。 ・シカ、イノシシなどの有害鳥獣による農産物被害への対策として、有害鳥獣の捕獲と侵入防止柵の設置を行いました。 ・上林川を守る会が実施する水生生物調査などを支援しました。 ・特定外来生物に指定されているオオキンケイギクについて、ホームページや市広報紙により啓発し、外来種問題に関する情報提供を行いました。 ・良好な里山景観の保全に向けて、上林川を守る会が実施するヨシ刈り作業や上林川環境美化大作戦を支援しました。 ・いきいき地域応援事業により、自治会連合会が主体的に取り組む景観整備活動を支援しました。また、水源の里指定集落による活性化事業や景観保全活動を支援し、自然景観と調和した集落の保全に努めました。 ・歩きやすく賑わいと活気を感じる街並み景観の創出に向けて、旧市民センター跡地に整備する新都市公園の設計を進めるとともに、都市計画マスタープランの改定案を検討しました。 ・綾部市自主防災組織等ネットワーク会議と連携し、自助・共助・公助の連携による災害に強いまちづくりを進めるため、研修会を開催するとともに、自主防災組織の設立（2022（令和4）年度現在の組織率は77.1％）や防災講座などを実施しました。また、減災に向けた水害等避難行動タイムラインを作成しました。
		豊かな自然の恵みを地域の活性化や農林業の振興に活かすまち	・中山間地域等直接支払制度においては、農地の維持、農地が有する水源かん養機能や洪水防止機能等の多面的機能を増進する活動等を支援しました。また、多面的機能支払制度においては、農地保全と農業用施設の維持修繕、老朽化が進む施設の長寿命化を行い、景観形成・生活環境保全、生態系保全など農村環境を守る取組を行った組織に対して交付金を交付しました。 ・農業後継者の育成・確保に向けて、新規就農希望者が農業技術・経営研修等を行う実践農場を設定しました。また、関係機関と連携を図り、新規就農希望者等の相談に対応しました。 ・環境保全型農業直接支払制度においては、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組んだ農業者団体等を支援しました。また、地産地消を推進するため、市内の小・中学校では、地域の特産品を使用した給食を同じ日に食べる「あやべ丸ごといただきます。あじわいランチの日」に取り組みました。 ・農業用施設等改良整備事業において、ため池の計画的な改修に取り組みました。

【基本目標別取組状況(3/5)】

環境像		目標	主な取組内容
1	(つづき) 「水と緑そして星空のまち」に向けて	(つづき) 豊かな自然の恵みを地域の活性化や農林業の振興に活かすまち	・持続可能な循環型林業を構築するため、新たに森林経営計画を作成し、森林施業の推進に努めました。 ・里山の再生を進めるため、モデルフォレスト活動に参画する企業の増加に努めました。 ・河川の水産資源の確保と増殖を目的とした由良川・上林漁業協同組合によるアユなどの稚魚放流事業を支援し、内水面漁業の振興を図りました。 ・「あやべ定住サポート総合窓口」を通して、空き家情報や就農・就職支援など定住に関する情報提供などを行い、2022(令和4)年度末累計で350世帯805人の定住につながっています。また、水源の里指定集落の定住や都市との交流、地域産業の開発と育成を支援しました。 ・NPO法人里山ねっと・あやべ等と連携し、農家民宿や体験プログラム、里山交流大学などグリーンツーリズムの取組を促進しました。 ・あやべ丹の国まつりや綾部夢ライトなど各種イベントにおいて、ごみの分別収集やごみの持ち帰りを推進し、環境負荷の低減に努めました。
2	「循環と調和のまち」に向けて	循環型社会の形成と推進	・綾部市一般廃棄物処理計画及び綾部市分別収集計画に基づき、全市域を対象に計画的な分別収集を行いました。 ・「リデュース(発生抑制)」においては、市広報紙による食品ロス削減等を通じたごみの発生抑制、「リユース(再使用)」においては、家具類などの粗大ごみをリユース品に、「リサイクル(再生利用)」では、資源ごみ回収補助金制度や古紙回収用保管庫設置費補助金制度の周知により、啓発に努めました。 ・3Rの推進に向けて、綾部市環境市民会議が実施するEM菌の普及啓発・廃食油回収事業(2021(令和3)年度廃止)といった資源の再利用と環境保全に向けた様々な事業に対し支援を行いました。 ・リサイクル推進員との連携による分別の取組を通じ、ごみの減量化・資源化等の促進に努めました。また、リサイクル推進員総会で、ごみ減量化などに関する研修を行いました。 ・市発注工事の廃棄物を減量化するため、建設工事に係る資材の再資源化に関する法律(建設リサイクル法)による対象工事の京都府への通知、業者への指導及び施工中の随時立会いや検査時のマニフェスト確認を行いました。 ・生活ごみ等の一般廃棄物の不法投棄については、自治会やリサイクル推進員等の協力で、早期発見、早期対応による不法投棄をされない環境づくりに努めるとともに、不法投棄禁止の警告看板を設置しました。 ・中間処理施設「綾部市クリーンセンター」において、安定・計画的な可燃ごみの処理を行いました。 ・新最終処分場などの一般廃棄物処理施設については、水質検査などを実施するとともに、環境に配慮した運転管理に努めました。 ・綾部市環境市民会議が6月の環境月間に合わせて実施するごみ減量キャンペーンの啓発活動を支援しました。 ・災害廃棄物の適正な収集・処理を行うため、災害廃棄物処理計画を策定しました。

【基本目標別取組状況(4/5)】

環境像		目標	主な取組内容
3	「地球環境を守るまち」に向けて	地球環境の保全のために足元から行動するまち	・地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に基づき、市広報紙などを通じて省エネ・節電対策や地球温暖化防止対策に関する啓発を行いました。 ・地球温暖化防止及びオゾン層の保護のため、市所管の施設において、フロン排出抑制法に基づきフロン使用機器の点検等適切な管理を行いました。また、「守ろうごみマナー」のポスター等を通じて、家電リサイクル法に則した家電製品の処理について市民への情報提供を行うとともに、クリーンセンターに持ち込まれた対象品について適切に処分しました。 ・あやバスや鉄道など公共交通機関の利用を促進するため、健康長寿定期65半額キャンペーンや運転免許証自主返納者あやバス回数券等交付などの高齢者向けのモビリティ・マネジメントを行うとともに、あやバス絵画展やあやバス乗車体験など子ども向きのイベントを行いました。 ・再生可能エネルギーの利活用に向けて、2050(令和32)年カーボンニュートラルの実現に向けた道筋を示す「綾部市脱炭素ロードマップ」を策定しました。また、住宅用太陽光発電システム設置費補助及び家庭向け自立型再生可能エネルギー導入費補助制度を実施し、太陽光エネルギーの利活用を支援しました。 ・省エネ型ライフスタイルやビジネススタイルの普及・啓発に向けて、クールビズやその他省エネに関する啓発を行いました。また、市所管の施設において、エアコン稼働時の温度管理を徹底し、節電に努めました。 ・市所管施設の新築・改修工事において、LED照明の採用や消し忘れ防止による人感センサーの設置を行いました。また、空調工事においては、地球温暖化係数を抑制する機種を設置し、省エネルギー型設備の普及に努めました。 ・第3次綾部市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)に基づき、アイドリング・ストップの徹底やエコドライブの推進、公用自転車の利用促進に取り組みました。 ・市が発注する工事においては、針葉樹合板やエコ製品の使用について仕様書で明記し、熱帯材系(広葉樹)合板からの転換を進めました。 ・あやテラスと里山交流研修センターの備品等に地域産の木材を使用しました。
4	「参加と創造のまち」に向けて	誰もが環境について学び、考えるまち	・学校教育においては、総合的な学習の時間、生活科、理科、社会科、家庭科等の学習を通して、身の回りや地域の環境を調べたり、環境の改善や保全のために自分にできることを考えたりする環境教育を推進しました。また、児童会や生徒会活動による家庭と連携したアルミ缶回収活動やPTA活動としての資源回収、書き損じはがきの回収等に取り組みました。さらに、学校での環境教育の定着を図るため、綾部市環境市民会議や上林川を守る会等の取組支援を通じて啓発を行いました。 ・出前講座やクリーンセンターへの施設見学、公民館事業などの活動を通じて環境学習の機会を提供しました。 ・市広報紙の掲載やFMいかる等を用いて環境の情報を発信するとともに、ホームページで啓発するなど、市民が手軽に情報を入手できるよう努めました。 ・図書館の環境に関する蔵書に努めました。また、各学校において、児童・生徒の主体的な「調べ学習」を促進するとともに、京都府立図書館の環境をテーマにした学校支援セットを提供しました。

【基本目標別取組状況(5/5)】

環境像		目標	主な取組内容
4	(つづき) 「参加と創造のまち」に向けて	地域と地球の環境の保全と創造に誰もが参加するまち	・「綾部市役所環境マネジメントシステム」により、本庁舎などのエネルギー使用量削減に努めました。 ・事業者にセミナー等の情報を提供し環境マネジメントシステムの認証取得の促進に努めました。 ・「平和と環境の日」関連行事として、地球市民の集い実行委員会による平和と環境保護に係る行事や「世界連邦推進綾部市小・中学生ポスター・作文コンクール」を開催するとともに、綾部市環境市民会議が実施する「環境美化クリーン大作戦」を支援しました。

資料4　綾部市の現況

1　市の特性と課題

各環境分野における綾部市の特性と課題を整理するとともに、各分野の詳細について次々頁以降に示します。

【分野別特性と課題(1/2)】

分野		特性	課題等
市の概況		・人口は減少傾向にあり、今後も減少が続くと予想されます。 ・地目別の土地利用は山林が市域の約半数を占めています。 ・産業別就業人口は第1次産業が最も少なく、減少傾向にあります。	・環境保全活動等を担う人材の減少や高齢化が懸念されるため、人材の確保や育成を進める必要があります。
脱炭素社会	脱炭素化に向けた行動	・市民・事業者を対象としたアンケートによると、節電や食品ロス対策など省エネに関する行動は既に実施している割合が高く、普及が進んでいます。 ・公共交通機関や自転車の利用、再エネの利用については、節電などの取組と比べると既に実施している割合が低くなっています。 ・電気自動車やハイブリッド自動車は、今後導入する予定の割合が比較的高くなっています。	・更なる省エネに向けて国が進めるデコ活などの普及啓発を進めていく必要があります。 ・市民の主要な移動手段が自動車となっており、次世代自動車の導入や公共交通機関の利用などを促進する必要があります。
	温室効果ガス排出量	・温室効果ガス総排出量は減少傾向、1人当たりの排出量は、全国平均と比べて低い水準にあります。 ・部門別温室効果ガス排出量は、産業部門が最も多く、次いで運輸部門が多くなっています。 ・このまま何も追加の対策を行わない場合、排出量は現状と同程度で推移すると予想されます。 ・全国や京都府と比較すると、特に産業部門の割合が高くなっています。	・排出量が多い産業部門と運輸部門については、技術革新や次世代自動車の開発等が必要なため、家庭部門と業務部門への対策を強化する必要があります。

【分野別特性と課題(2/2)】

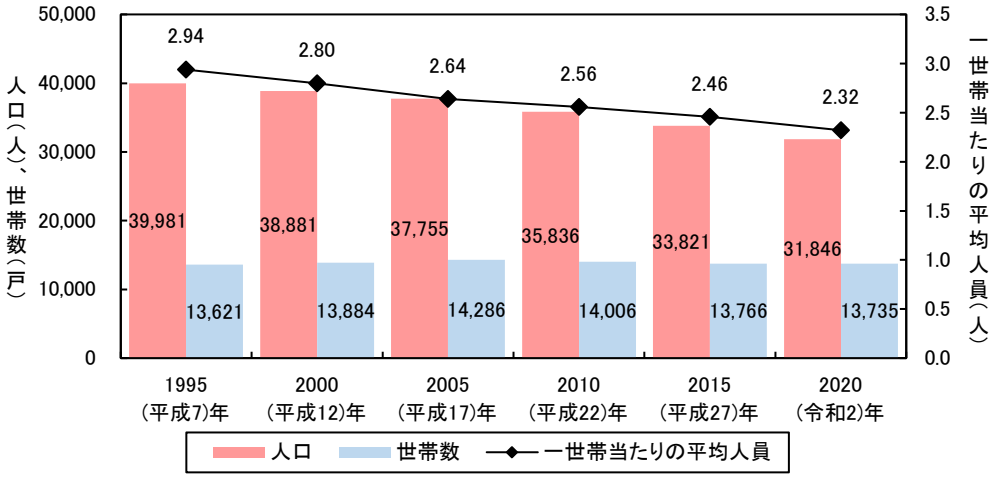
分野		特性	課題等
(つづき) 脱炭素社会	再生可能エネルギー	・市内に導入されている再生可能エネルギーの大半は太陽光発電となっています。 ・市内の新築住宅に対する太陽光発電の導入率は、2019(令和元)年度時点で約4割となっています。 ・再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは、太陽光発電と陸上風力発電が高くなっています。 ・アンケートやワークショップでは、小規模な太陽光発電設備を設置しても良いと思う場所として、市街地や公共施設(屋根の上等)などが挙げられています。	・再エネ導入効果の高いエリアについて優先的に脱炭素化を進め、その他のエリアに波及させていくことが重要です。 ・公共施設や新築の住宅・建築物について、積極的な再エネの導入や利活用を進める必要があります。
	森林吸収量	・森林による CO_2吸収量は年によりばらつきがあるものの、6万t-CO_2程度で推移しています。	・樹木は成長するにつれて吸収量が減少することから、適切な森林の維持管理が必要です。
循環型社会		・一般廃棄物は減少傾向にあります。 ・地域と連携した3R活動が行われています。	・更なるごみの減量化・資源化に向けて5Rを進めていく必要があります。
気候変動		・綾部市周辺では約50年の間に年平均気温が1.3℃上昇しています。 ・また、真夏日・猛暑日・熱帯夜の日数が増加しています。 ・近年総雨量300mmを超えるような台風や豪雨などの災害が発生しています。	・平均気温の上昇や猛暑日の増加など暑熱に対する対策を強化する必要があります。 ・頻発・激甚化が進む自然災害について、体制の構築や啓発などを進めていく必要があります。
自然共生社会	自然環境	・本市にはコウノトリ飛来地やシャガ・ミツマタ群生地など多様な自然環境が残されています。 ・野生鳥獣による農作物被害などが発生し、森林や農地の管理などへの悪影響が出ています。	・貴重な生きものや里地里山環境を継続して保全・維持管理していく必要があります。
	生活環境	・市内の大気や水質などは概ね良好な状態が維持されています。	・各分野の環境基準に基づき関係機関と連携し監視や対策を行う必要があります。

2 市の概況

(1)人口・世帯数

2020(令和2)年の国勢調査によると、綾部市の人口は31,846人、世帯数は13,735世帯となっています。人口の推移を見ると、1995(平成7)年から2020(令和2)年にかけて約20.3%減少しています。また、世帯数の推移を見ると、2005(平成17)年以降減少しており、2005(平成17)年から2020(令和2)年にかけて約3.9%減少しています。

一世帯当たりの平均人員は、2020(令和2)年現在2.32人となっており、1995(平成7)年の2.94人から約21.1%減少しています。

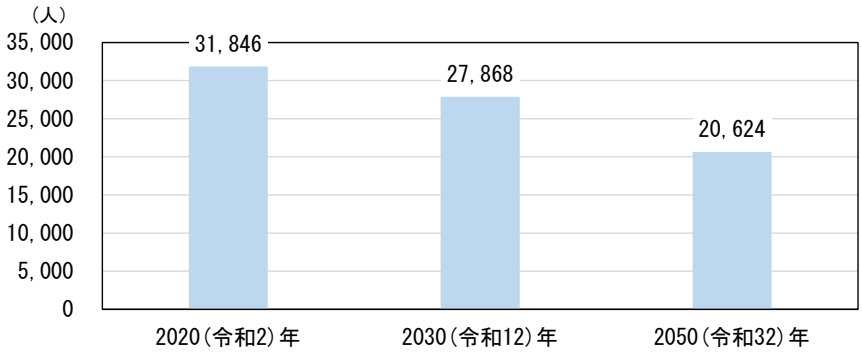


【人口・世帯数・一世帯当たりの平均人員の推移】

資料:国勢調査

(2)将来推計人口

国勢調査と国立社会保障・人口問題研究所によると、綾部市の2030(令和12)年の人口は27,868人、2050(令和32)年の人口は20,624人と減少が続く推計となっています。

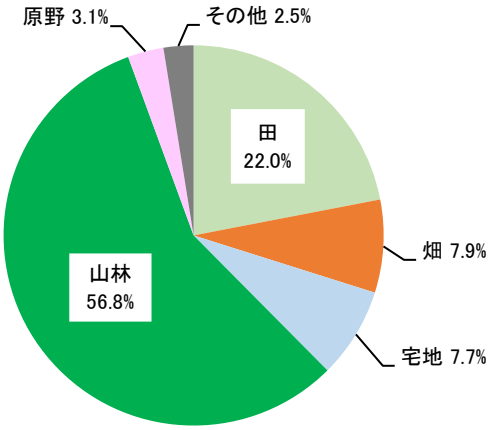


【将来推計人口】

資料:国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

(3)地目別土地面積の割合

京都府統計書によると、2020（令和2）年度における綾部市の地目別土地面積の割合は、山林が最も多く56.8%を占め、次いで田が22.0%となっており、山林と田が市域の大半を占めています。

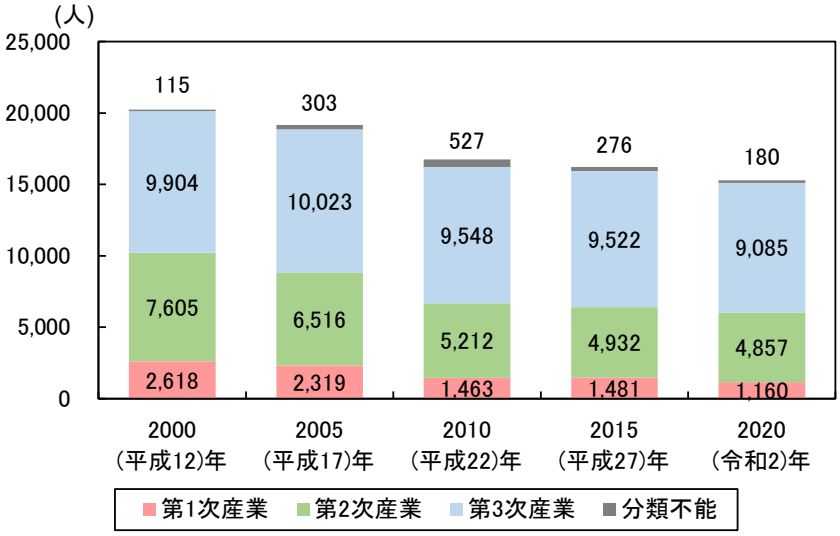


【地目別土地面積の割合（令和3年1月現在）】

資料：京都府統計書

(4)産業・就業動態

国勢調査によると、2020（令和2）年度における綾部市の就業人口は15,282人で、2000（平成12）年比24.5%減となっています。産業別にみると、第3次産業が最も多く、次いで第2次産業、第1次産業の順となっています。また、第1次産業は20年間で半数以下に減少しています。

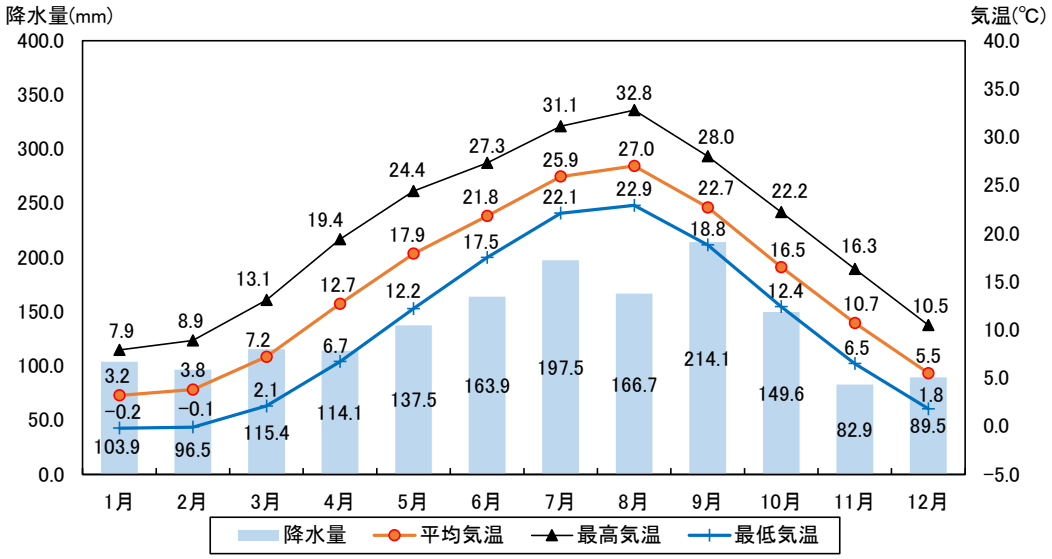


【産業別就業人口の推移】

資料：国勢調査

(5)気象

本市から最も近い福知山地域気象観測所における気温・降水量の30年平均値をみると、1991(平成3)年～2020(令和2)年の平均気温は14.6℃、平均降水量は1,631.6mmとなっています。また最高気温は8月の32.8℃、最低気温は1月の-0.2℃と寒暖差が大きくなっています。



【綾部近郊の降水量と気温の推移(福知山地域気象観測所30年平均値)】

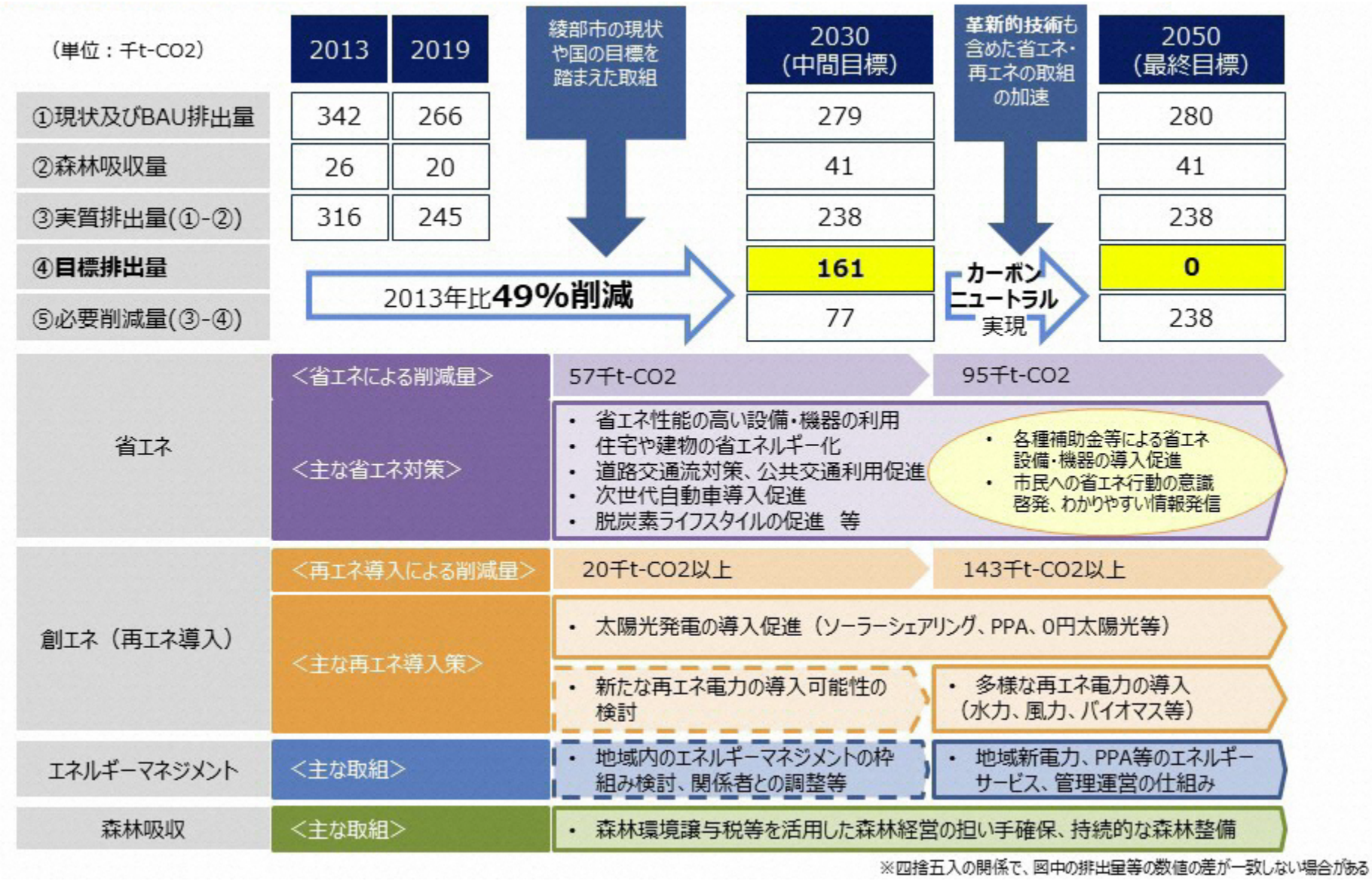
資料:気象庁(気温・降水量1991年～2020年の平均値)

3 脱炭素社会に関すること

(1)脱炭素社会の実現に向けた行政のこれまでの取組

綾部市は、2021(令和3)年9月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行っており、この実現には省エネ対策と再エネの導入・利活用が重要となっています。そこで、2022(令和4)年度に2050(令和32)年カーボンニュートラル実現に向けた現状分析や手法等をまとめた「綾部市脱炭素ロードマップ」を作成しました。

ロードマップでは、市内から出る温室効果ガスを2030(令和12)年に2013(平成25)年度比で49%削減、また2050(令和32)年に排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを示しています。



【綾部市におけるカーボンニュートラル実現に向けたロードマップイメージ】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

ゼロカーボンを実現するための取組として、太陽光発電や蓄電池の購入に関する補助（綾部市住宅用太陽光発電システム設置費補助制度、綾部市家庭向け自立型再生可能エネルギー導入費補助制度）や個人や事業者、団体が市内で実践している優れた取組を表彰する「あやべゼロカーボン表彰」を行っており、意識醸成や脱炭素に向けた取組の普及につながっています。

また、事務事業のゼロカーボンを実現するための取組として、公共施設を対象とした再生可能エネルギー設備導入可能性調査を行っており、導入が最も効率的に行える新設の施設として2施設、導入可能な施設として5施設の調査結果を受け、導入に向けた検討を進めています。

【再生可能エネルギー設備の導入効果が高い公共施設】

区分	総数（施設）	導入が最も効率的に行える新設の施設	導入可能な施設
公共施設	26	2	4
教育施設	14	0	1
公民館施設	12	0	0
合計	52	2	5
設置可能な最大発電量	291万kWh/年	14万kWh/年	61万kWh/年

資料：綾部市公共施設再生可能エネルギー設備導入調査

（2）温室効果ガス排出量の排出状況

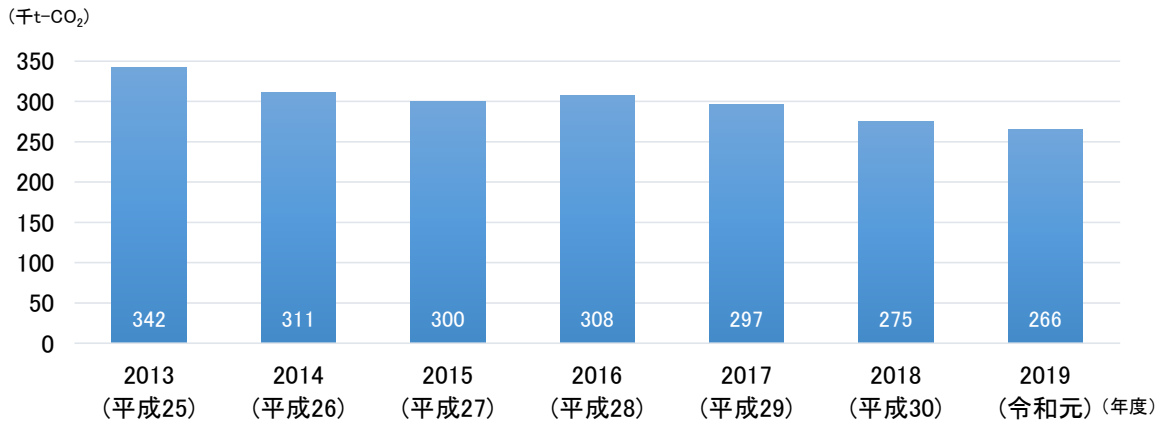
本市の温室効果ガス排出量を分析する上で対象とする部門は以下の4部門とします。各部門の概要は以下のとおりです。

【各部門の概要】

対象部門	概　要
産業部門	第1・2次産業（農林業、鉱業、建設業、製造業等）
業務部門	第3次産業
家庭部門	家庭生活に関すること
運輸部門	各部門の移動に関すること（バス、タクシーなどを含む自動車全般、鉄道）

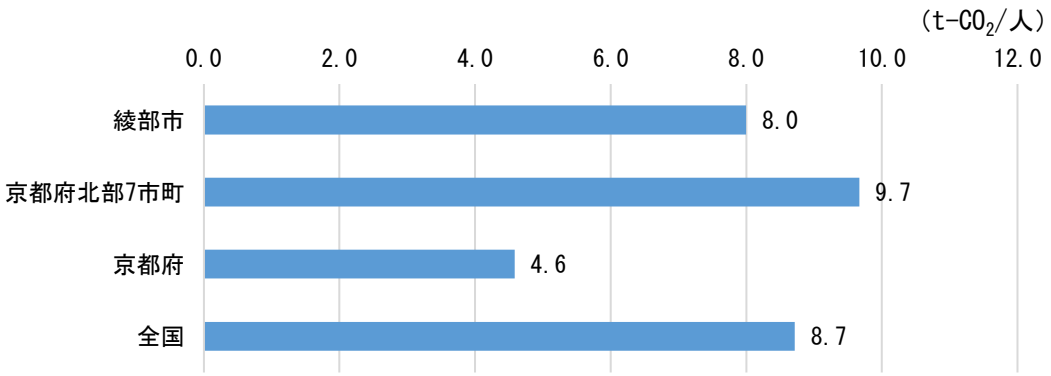
① 温室効果ガス排出量の推移

2019（令和元）年度現在、綾部市の温室効果ガス総排出量は約266千t-CO_2となっており、2013（平成25）年度と比べて約22.2%減少しています。また、1人当たりCO_2排出量は、全国平均と比べて低い水準にあります。



【綾部市の温室効果ガス総排出量の推移】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ



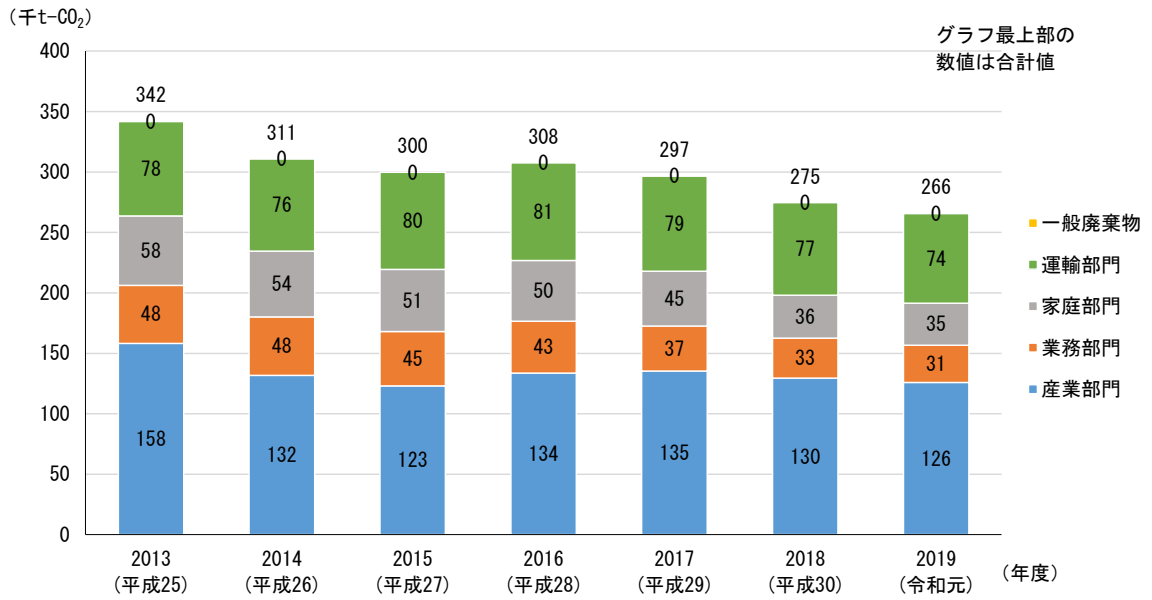
【住民一人当たりの温室効果ガス排出量の地域比較（令和元年度値）】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

② 部門別温室効果ガス排出量の推移

2019（令和元）年度現在、部門別温室効果ガス排出量は、産業部門が約126千t-CO_2と最も多く、次いで運輸部門が74千t-CO_2、家庭部門が35千t-CO_2、業務部門が31千t-CO_2の順となっています。

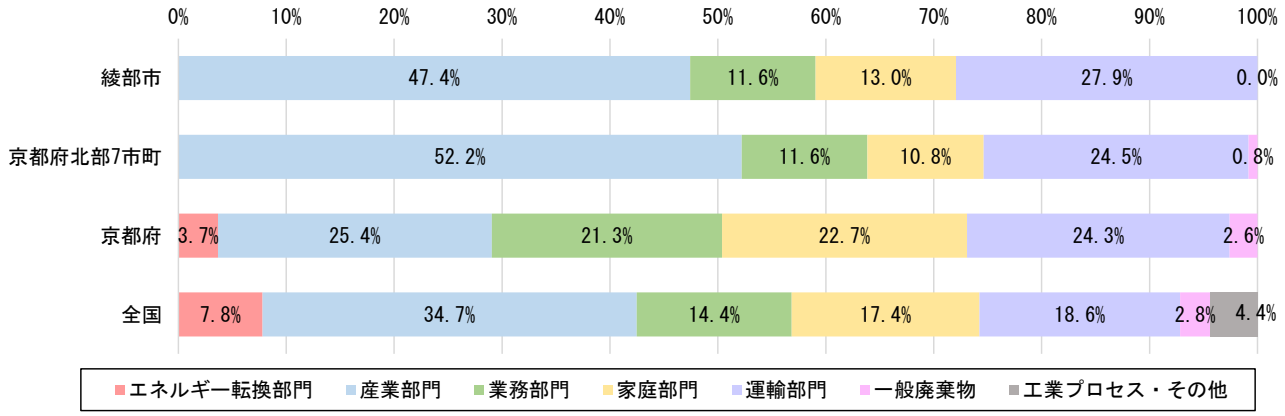
全国や京都府と比較しても、特に産業部門の割合が高くなっています。



【部門別温室効果ガス総排出量の推移】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

※四捨五入の関係で、図中の数値の合計が一致しない場合があります



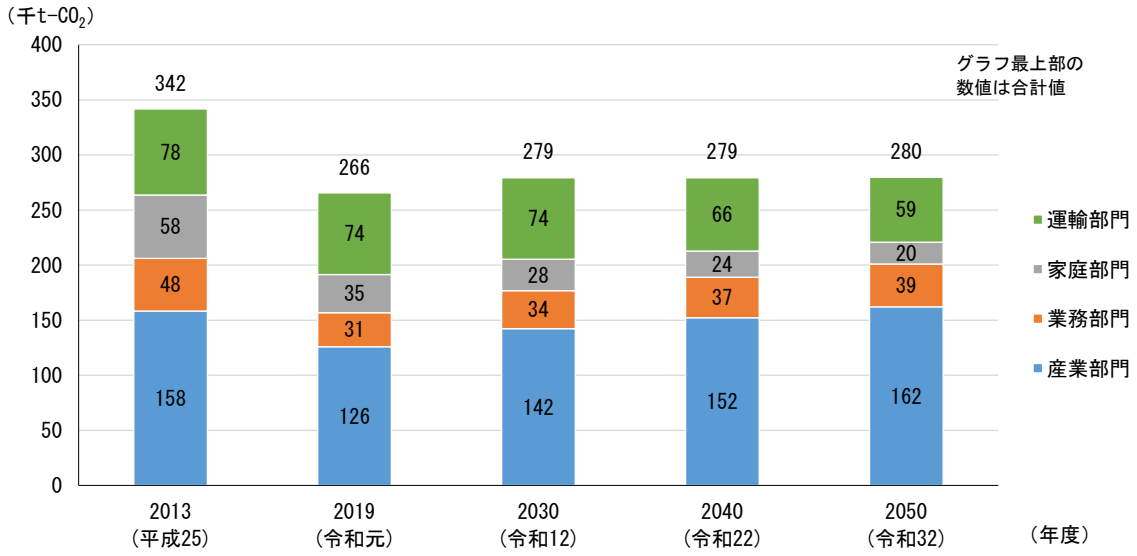
【部門別温室効果ガス排出量の地域比較（令和元年度値）】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

※四捨五入の関係で、図中の数値の合計が一致しない場合があります

③ 温室効果ガス排出量の将来推計

このまま何も追加の対策を行わなかった場合の将来のBAU排出量をみると、2030（令和12）年度が約279千t-CO_2、2050（令和32）年度が280千t-CO_2となっており、2030（令和12）年度以降、総排出量はほぼ横ばいですが、その内訳は、家庭部門や運輸部門が人口減少に伴い減る一方、産業部門や業務部門は経済成長と共に増加すると推計されています。



【部門別温室効果ガス排出量の将来推計】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

※四捨五入の関係で、図中の数値の合計が一致しない場合があります

(3)市内における再エネの導入状況

① 再生可能エネルギーの導入量の推移

2021(令和3)年度末における綾部市の再生可能エネルギーの導入量は約4,612万kWh/年となっており、その大半が太陽光発電の産業用(10kWh以上)となっています。

2021(令和3)年度末の再生可能エネルギー導入量は、「自治体排出量カルテ(環境省)」が公表している市内の電力需要(約21,913万kWh/年)の約21.0%に相当します。

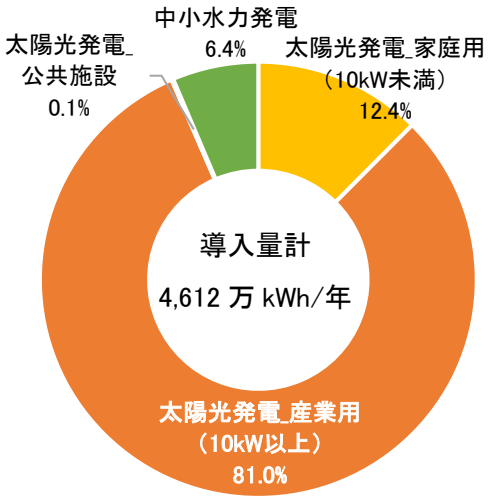
【再生可能エネルギーの導入実績量(発電電力量)】

(万kWh)

再生可能エネルギー 種別	2014 (平成26) 4月	2014 (平成26) 年度	2015 (平成27) 年度	2016 (平成28) 年度	2017 (平成29) 年度	2018 (平成30) 年度	2019 (令和元) 年度	2020 (令和2) 年度	2021 (令和3) 年度
太陽光発電	1,253	1,564	2,551	2,689	2,945	3,507	3,596	4,244	4,318
家庭用(10kW未満)	325	374	402	427	451	476	504	534	574
産業用(10kW以上)	926	1,188	2,144	2,257	2,489	3,026	3,086	3,704	3,738
公共施設	2	2	4	5	5	5	6	6	6
中小水力発電	294	294	294	294	294	294	294	294	294
風力発電	–	–	–	–	–	–	–	–	–
地熱発電	–	–	–	–	–	–	–	–	–
バイオマス発電	–	–	–	–	–	–	–	–	–
合計	1,547	1,858	2,846	2,983	3,239	3,801	3,891	4,539	4,612
(参考)電力使用量		23,715	22,450	21,995	23,049	22,595	21,990	22,395	21,913

資料:綾部市脱炭素ロードマップ、自治体排出量カルテ(環境省)

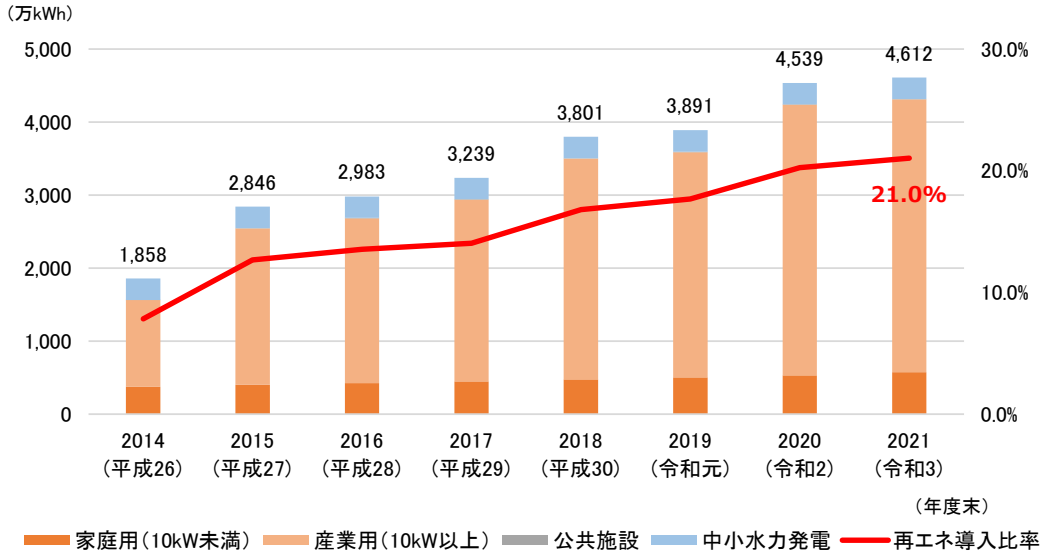
※四捨五入の関係で、表中の数値の合計が一致しない場合があります



【再生可能エネルギーの導入量内訳(令和3年度末)】

資料:綾部市脱炭素ロードマップ

※四捨五入の関係で、図中の数値の合計が一致しない場合があります



【再生可能エネルギーの導入実績量（発電電力量）の推移】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

② 太陽光発電

◆太陽光発電の導入状況

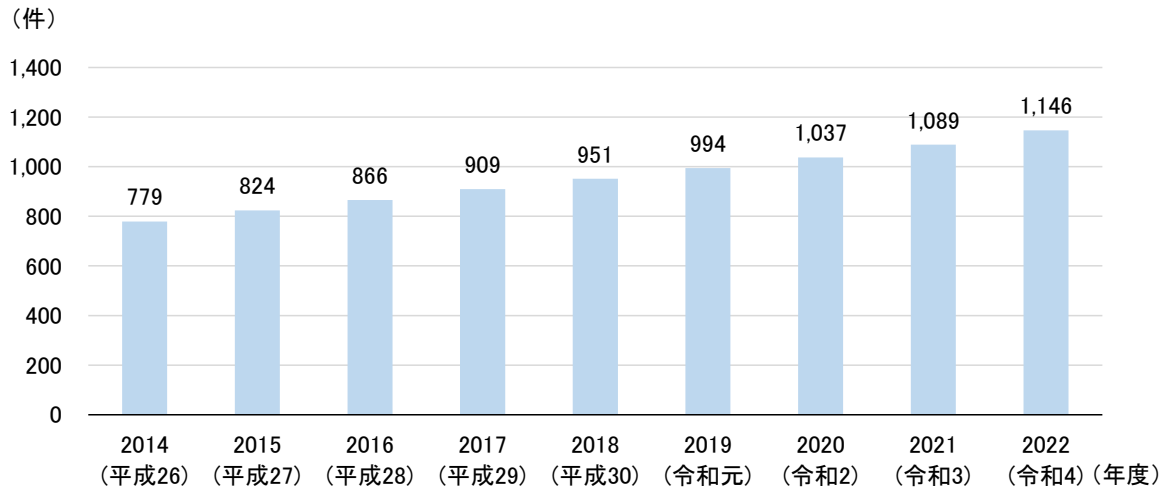
国の固定価格買取制度に基づく綾部市の家庭用太陽光発電（10kW未満）の導入件数累計は2022（令和4）年度現在1,146件となっており、緩やかな増加傾向にあります。

また、家庭用太陽光発電（10kW未満）の導入実績量（発電電力量）は2022（令和4）年度現在614万kWh となっており、緩やかな増加傾向にあります。

綾部市の住宅戸数に対する太陽光発電の導入率は、2018（平成30）年度時点で約8.6%※1、また、新築住宅に対する太陽光発電の導入率は、2019（令和元）年度時点で約41.3%※2となっています。

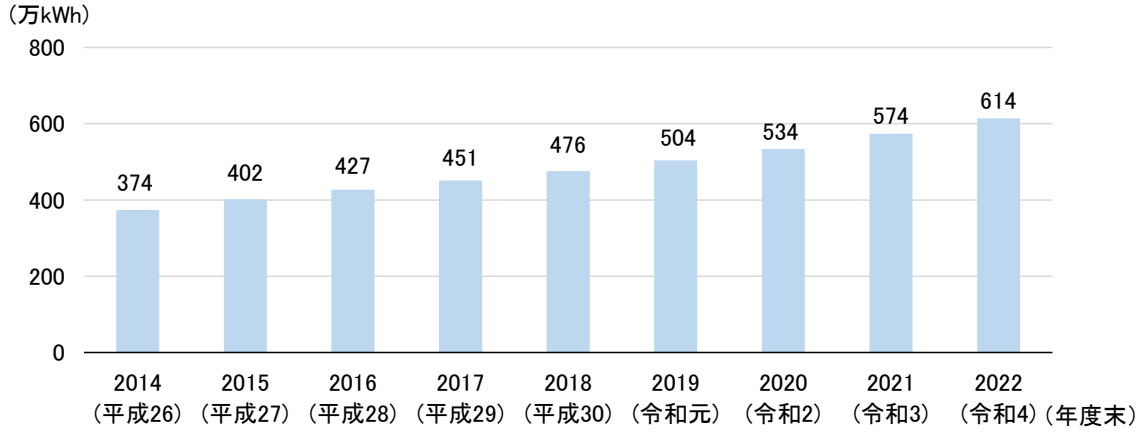
※1：家庭用太陽光発電（10kW 未満）導入件数累計（出典：自治体排出量カルテ）/戸建住宅数（一戸建て）（出典：住宅土地統計調査）

※2：家庭用太陽光発電（10kW 未満）導入件数（出典：自治体排出量カルテ）/着工新設住宅数（出典：建築着工統計調査）



【家庭用太陽光発電（10kW未満）の導入件数累計の推移】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ、再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法 情報公表用ウェブサイト



【家庭用太陽光発電（10kW未満）の導入実績量（発電電力量）の推移】

資料：綾部市脱炭素ロードマップ、再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法 情報公表用ウェブサイト

◆住宅用太陽光発電導入に関する補助

本市では市内の再生可能エネルギーの導入促進に向けて、太陽光発電システム導入への補助（綾部市住宅用太陽光発電システム設置費補助制度）と、太陽光発電システムと蓄電池の同時購入への補助（綾部市家庭向け自立型再生可能エネルギー導入費補助制度）を行っており、2022（令和4）年度はそれぞれ24件、15件の導入につながっています。

綾部市住宅用太陽光発電システム設置費補助制度は、のべ592件の補助を行っています。

綾部市家庭向け自立型再生可能エネルギー導入費補助制度は、のべ83件の補助を行っています。

【綾部市住宅用太陽光発電システム設置費補助制度の交付状況】

（項目）＼（年度）	2011（平成23）	2012（平成24）	2013（平成25）	2014（平成26）	2015（平成27）	2016（平成28）	2017（平成29）	2018（平成30）	2019（令和元）	2020（令和2）	2021（令和3）	2022（令和4）	計
交付件数	60	106	104	101	43	33	23	30	21	19	28	24	**592**
設置kW数（年計）	249.92	448.56	496.22	501.66	247.28	156.87	117.38	151.42	106.21	97.27	172.68	151.78	**2,897.25**
設置kWh数（年計）	299,934	538,326	595,524	602,052	296,766	188,263	140,870	181,722	127,465	116,736	207,237	182,154	**3,477,048**
設置kW数（平均）	4.17	4.23	4.77	4.97	5.75	4.75	5.10	5.05	5.06	5.12	6.17	6.32	**4.89**
設置kWh数（平均）	4,999	5,079	5,726	5,961	6,902	5,705	6,125	6,057	6,070	6,144	7,401	7,590	**5,873**

※設置kWh数は、設置kW数を基に、設備利用率を13.7%と仮定して算出

資料：綾部市

【綾部市家庭向け自立型再生可能エネルギー導入費補助制度の交付状況】

(項目) (年度)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019 (令和元)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	計
交付件数	10	10	10	8	15	15	15	**83**
設置kW数（太陽光累計）	52.59	51.27	47.11	42.11	76.57	88.53	103.88	**462.06**
設置kWh数（蓄電池累計）	59.80	64.40	63.60	58.72	100.04	95.48	137.40	**579.44**
設置kW数（太陽光平均）	5.26	5.13	4.71	5.26	5.10	5.90	6.93	**5.57**
設置kWh数（蓄電池平均）	5.98	6.44	6.36	7.34	6.67	6.37	9.16	**6.98**

資料：綾部市

◆市有公共施設への太陽光発電の導入状況

2023（令和5）年3月現在、計7施設に太陽光発電設備や蓄電池が設置されています。そのうち、里山交流研修センターとあやテラスについては2023（令和5）年度に太陽光発電設備と蓄電池を整備しました。

【市有公共施設に設置している太陽光発電設備の一覧】

施設名	設置kW数	蓄電池kWh	設置kWh数（推計）
豊里小学校	15	－	18,002
綾部会館	10.3	16.2	12,361
上林小・中一貫校	10.6	16.2	12,721
東綾小中一貫校	3.84	－	4,608
あやべ・日東精エアリーナ（市民センター）	11.55	16.8	13,861
計	51.29	49.2	61,553
里山交流研修センター（令和5年度整備）	20.9	16.8	25,082
あやテラス（令和5年度整備）	85.5	46.3	102,610

資料：綾部市

③ 中小水力発電

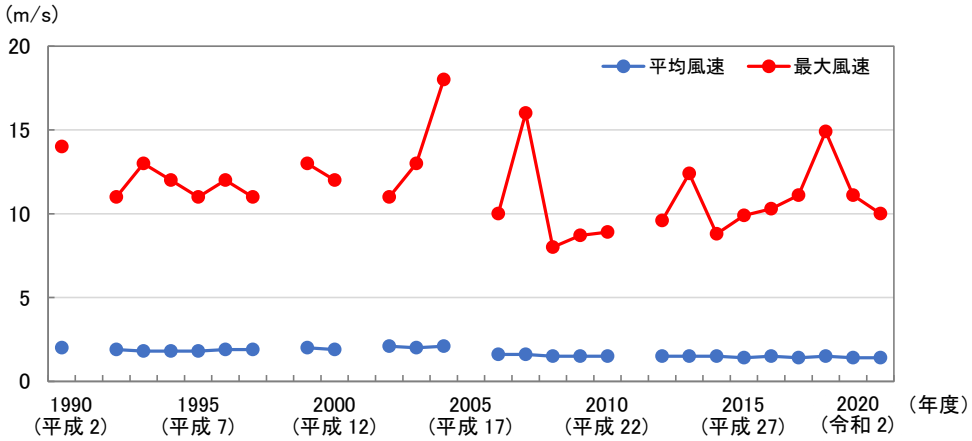
2020（令和2）年度現在、本市における水力発電施設は、関西電力（株）が所管する以下2箇所が稼働しており、導入量は推計294万kWhとなっています。

・新由良川発電所（戸奈瀬町）
・山家発電所（広瀬町）

④ 風力発電

現在、本市において風力発電の導入実績はありません。

気象庁のデータによると、本市から一番近い福知山市の過去30年間の風況は、月別平均風速1.4～2.1m/sとなっています。これは一般的に、風力発電を導入するのに望ましいとされる年間平均風速が6.0m/s以上に届いておらず、導入効果は低いと考えられます。一方で、東部地域の稜線上に6.5～8.0m/s程度の風量があることが、再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS）で示されています。



【平均風速と最大風速の推移】

※観測データが不十分なものについては除外した

資料：気象庁提供「過去の気象データ」の福知山地域気象観測所の解析結果をもとに作成

⑤ バイオマス発電

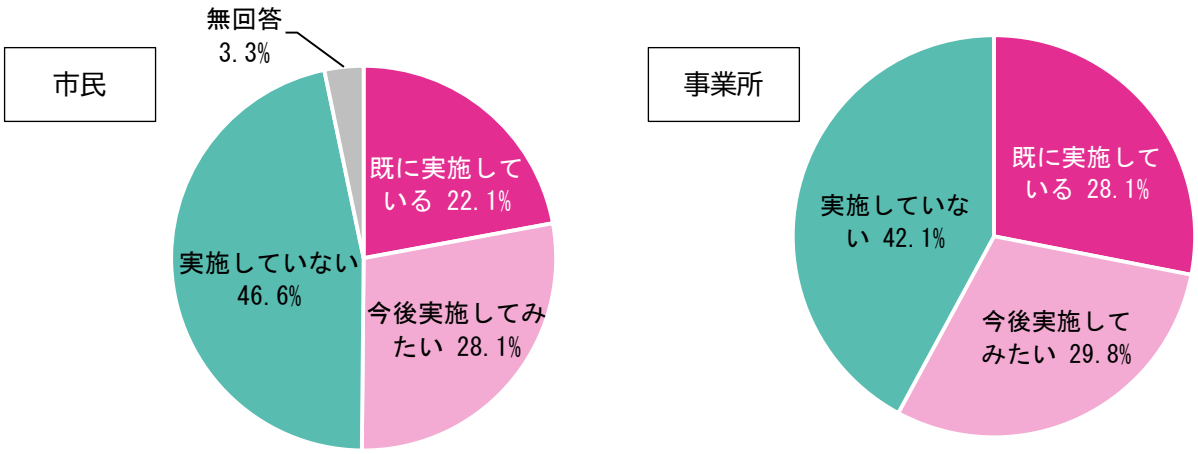
現在、本市においてバイオマス発電の導入実績はありません。

本市は豊かな自然に恵まれており、木質バイオマスの利用や食品廃棄物・し尿等から発生するメタンガスを用いたメタン発酵系バイオマス発電の利用が考えられます。

⑥ 市民・事業者の電力契約状況

市民・事業者に行ったアンケートによると、家庭では約22%、事業所では約28%において、再エネ等を利用した環境に配慮した電力を購入・利用している結果となっています。

導入していない理由としては、市民・事業者共にコスト面が一番多く挙げられており、導入の必要性やメリットについての情報発信が重要となっています。



【再エネ等を利用した環境に配慮した電力の購入・利用状況(アンケート調査より)】

(4)市内における再エネの導入ポテンシャル

① 再生可能エネルギー導入ポテンシャル

綾部市の再生可能エネルギーの導入ポテンシャル量は最大年間180,596万kWh/年であり、太陽光発電と陸上風力発電のポテンシャルがその大部分を占めています。

【再生可能エネルギー導入ポテンシャル】

再生可能 エネルギー種別	導入実績 (2021年度末)	導入ポテンシャル (既存の発電量を含む)
太陽光発電	<家庭用> 574万kWh/年 <産業用> 3,738万kWh/年 <市有公共施設> 6万kWh/年	建物系:30,263万kWh/年 土地系:62,903万kWh/年
水力発電	294万kWh/年(推計値)	河川:640万kWh/年
風力発電	-	陸上:84,135万kWh/年
バイオマス発電	-	木質系:2,084万kWh/年 メタン発酵系:572万kWh/年
合計	4,612万kWh/年	180,596万kWh/年

※四捨五入の関係で、表中の数値の合計が一致しない場合があります

資料:綾部市脱炭素ロードマップ

② 太陽光発電

本市における太陽光発電の導入ポテンシャル（年間発電電力量）は、建物系が30,263万kWh/年、土地系が62,903万kWh/年、合計93,166万kWh/年となっています。

【太陽光発電の導入ポテンシャル】

区分	設備容量	年間発電電力量
太陽光発電（建物系）	254.147MW	30,263万kWh/年
太陽光発電（土地系）	527.772MW	62,903万kWh/年
合計	781.919MW	93,166万kWh/年

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

綾部市脱炭素ロードマップでは、温室効果ガス削減目標の達成に向けた算出根拠として以下のとおり太陽光発電の導入を想定しており、2014（平成26）年度以降、2030（令和12）年度までに累計3,722万kWh/年を導入する試算を行っています。

【今後の太陽光発電導入想定量と温室効果ガス削減効果】

種別	導入実績（累計）2014～2021年度	導入想定量（累計）		2030年度までの導入の考え方
		2014～2030年度	2014～2050年度	
住宅 10kW未満	249万kWh/年	512万kWh/年 （+263万kWh/年）	最大限の導入 （少なくとも25,000万kWh/年程度）	新築戸建住宅の60%（国と同等の目標値）に太陽光発電設備を設置
市有公共施設	6万kWh/年	43万kWh/年 （+37万kWh/年）		「綾部市公共施設再生可能エネルギー設備導入調査」における設置可能な施設の50%に太陽光発電設備を設置
その他建築物等 10kW以上	2,812万kWh/年	3,167万kWh/年 （+355万kWh/年）		2021～2030年度にかけて年間導入量の3%程度が毎年増加するペースで導入
合計	3,067万kWh/年	3,722万kWh/年 （+655万kWh/年）	最大限の導入 25,000万kWh/年以上	

資料：綾部市脱炭素ロードマップ

③ 中小水力発電

本市における中小水力発電の導入ポテンシャル（年間発電電力量）は、由良川の結節点の2箇所において確認されており、合計640万kWh/年となっています。

綾部市脱炭素ロードマップによると、現状必要な流量・流速が確保できる河川が少なく、ポテンシャルも僅少となっており、今後発電設備の技術開発やコスト等を踏まえ、導入の可能性を検討していくこととなっています。

④ 風力発電

本市における陸上風力発電の導入ポテンシャル（年間発電電力量）は、合計84,135万kWh/年となっています。

綾部市脱炭素ロードマップによると、騒音問題や自然環境への影響について丁寧な住民説明が不可欠であり、風力発電に適したポテンシャルを有する場所も限られていることから、今後の技術開発やコスト等を踏まえ、住民合意等を前提に、導入の可能性を検討していくこととなっています。

⑤ バイオマス発電

◆木質系バイオマス

本市における木質系バイオマス発電の導入ポテンシャルは、2,084万kWh/年程度になると試算されています。

綾部市脱炭素ロードマップによると、綾部市は森林面積が市域の8割近くを占め、潜在的なポテンシャルは高いものの、急峻な山も多く、森林管理の担い手等も不足し、安定的なバイオマス資源の確保が課題となっています。今後、森林環境譲与税の活用や広域連携等による資源確保、コスト等を踏まえ、導入の可能性を検討していくこととなっています。

◆メタン発酵系バイオマス

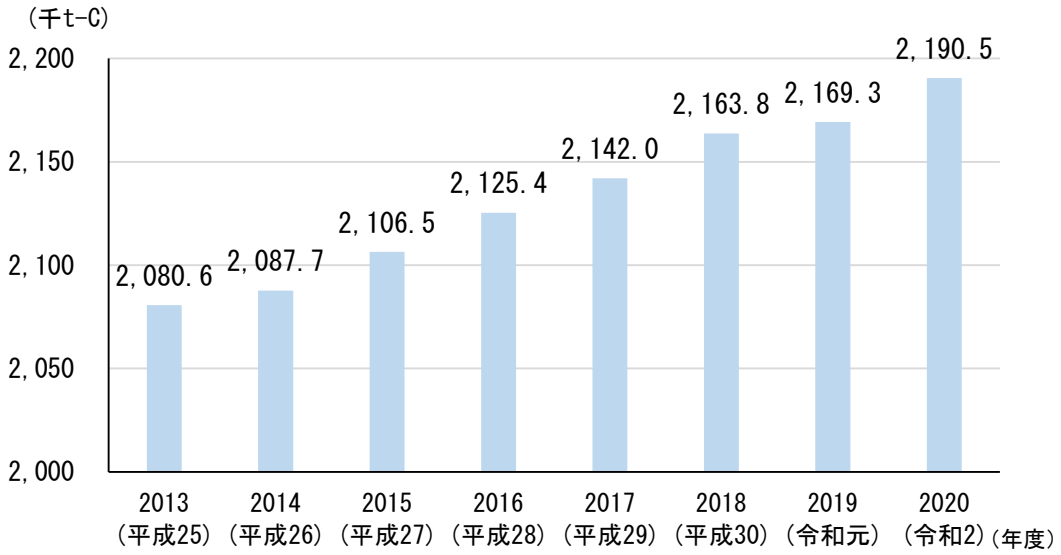
本市において回収した食品廃棄物やし尿等から発生するメタンガスを用いてメタン発酵系バイオマス発電を行った場合、その導入ポテンシャルは、572万kWh/年程度になると試算されています。

綾部市脱炭素ロードマップによると、食品廃棄物や下水処理汚泥などを活用したバイオマス発電については、現状では事業性を確保できる規模ではないため、今後、発電施設の技術開発やコスト等を踏まえ、導入の可能性を検討していくこととなっています。

(5) 森林吸収量

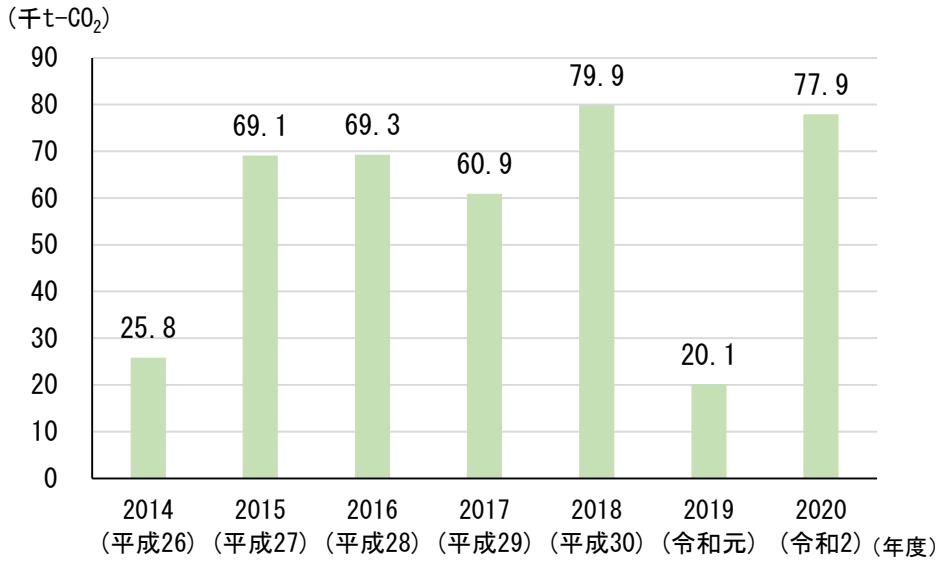
2020(令和2)年度における綾部市の森林による炭素蓄積量は2,190.5千t-Cで、増加傾向となっています。

また、2020(令和2)年度における森林の二酸化炭素吸収量は77.9千t-CO_2となっており、年平均(2014(平成26)年度から2020(令和2)年度までの7年間の平均)は57.6千t-CO_2となっています。



【炭素蓄積量の推移】

資料:綾部市脱炭素ロードマップ



【二酸化炭素吸収量の推移】

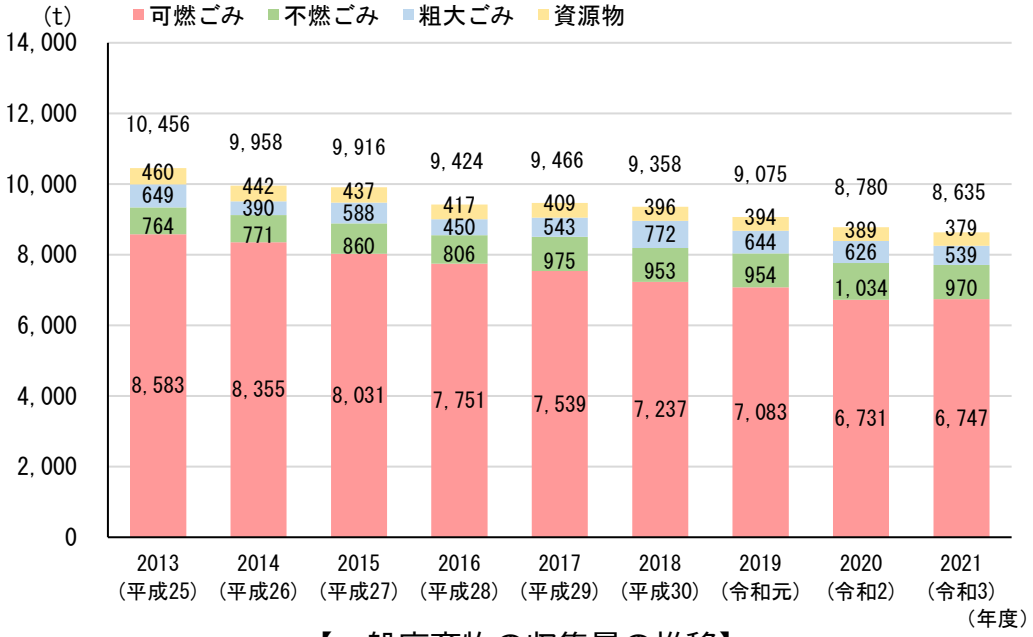
資料:綾部市脱炭素ロードマップ

4 循環型社会に関すること

(1)一般廃棄物の収集・処理状況

2021（令和3）年度における綾部市の一般廃棄物の収集量は8,635tと2013（平成25）年度から減少傾向にあり、2013（平成25）年度と比べて約17.4%減少となっています。

各一般廃棄物について、可燃ごみは固形燃料化（RDF）、資源物は資源化処理をしています。



【一般廃棄物の収集量の推移】

資料：あやべ統計書

(2)3Rや不法投棄防止に向けた取組

本市の3Rに向けた取組として、再利用可能な家具類などの粗大ごみのリユースに努めています。

また、リサイクル推進員との連携による分別の取組や、古紙回収プロジェクトなど、地域と連携した取組を進めています。

不法投棄に対しては、自治会による情報提供をはじめ、地域と連携して早期発見と早期対応に努めています。

5 気候変動への適応に関すること

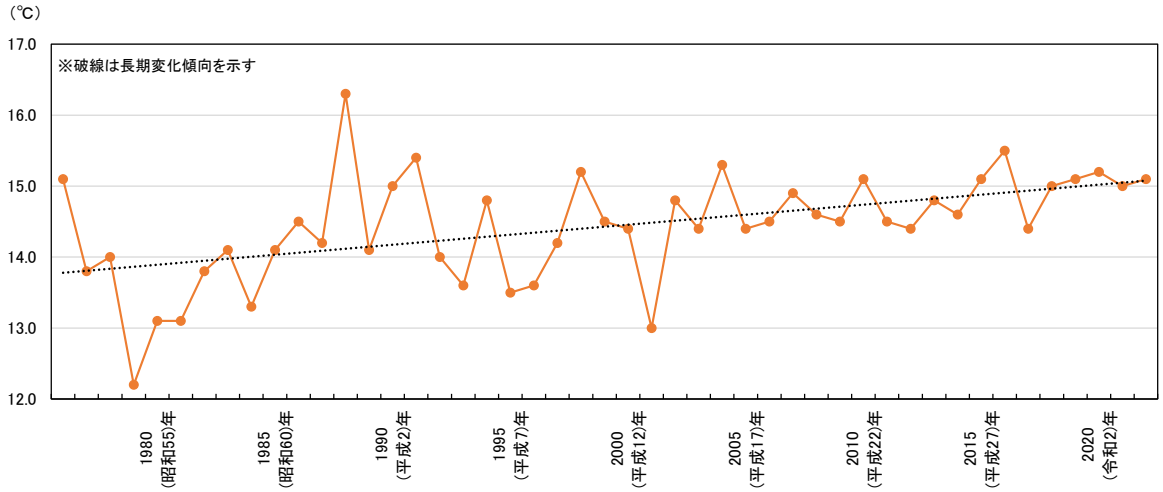
(1)綾部市周辺の気候の経年変化

① 年平均気温

綾部市から最も近い福知山地域気象観測所の日平均気温の経年変化をみると、約50年間で約1.3℃上昇しています。

「日本の気候変動2020」(文部科学省・気象庁)に基づく地域の観測・予測情報リーフレット(京都府の気候変動)によると、京都府においても、年間平均気温が100年当たり約2.1℃上昇しており、今後追加の対策を行わないと、京都府の年平均気温は最大で約4.3℃上昇する予測※となっています。

※21世紀末(2076~2095年の平均)の予測を20世紀末(1980~1999年の平均)と比較した場合



【綾部市周辺の年平均気温の経年変化】

資料:気象庁提供「過去の気象データ」の福知山地域気象観測所の解析結果をもとに作成

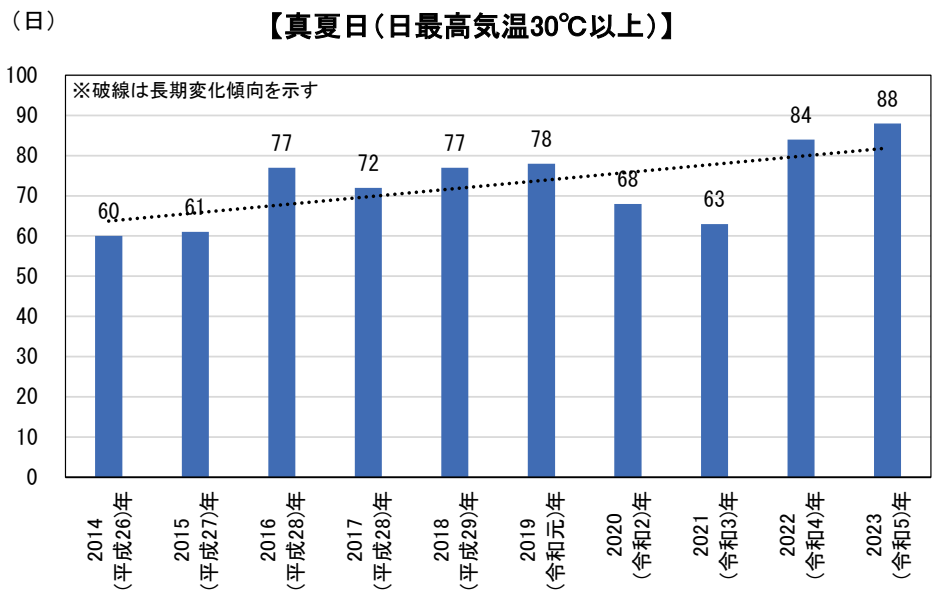
② 真夏日・猛暑日・熱帯夜

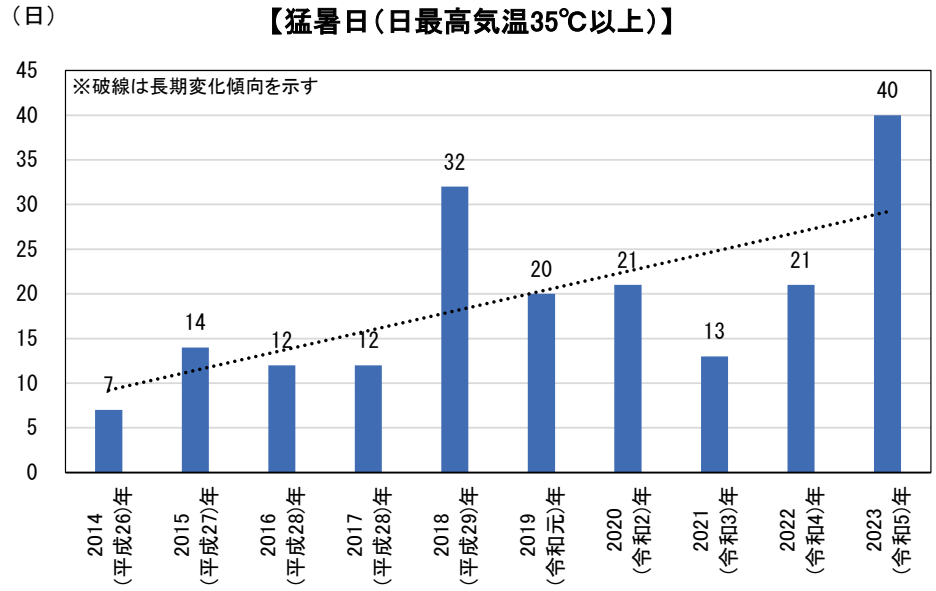
福知山地域気象観測所における2023(令和5)年の真夏日(日最高気温30℃以上)は、88日と過去10年で最も多くなっており、2014(平成26)年から28日も増加しています。

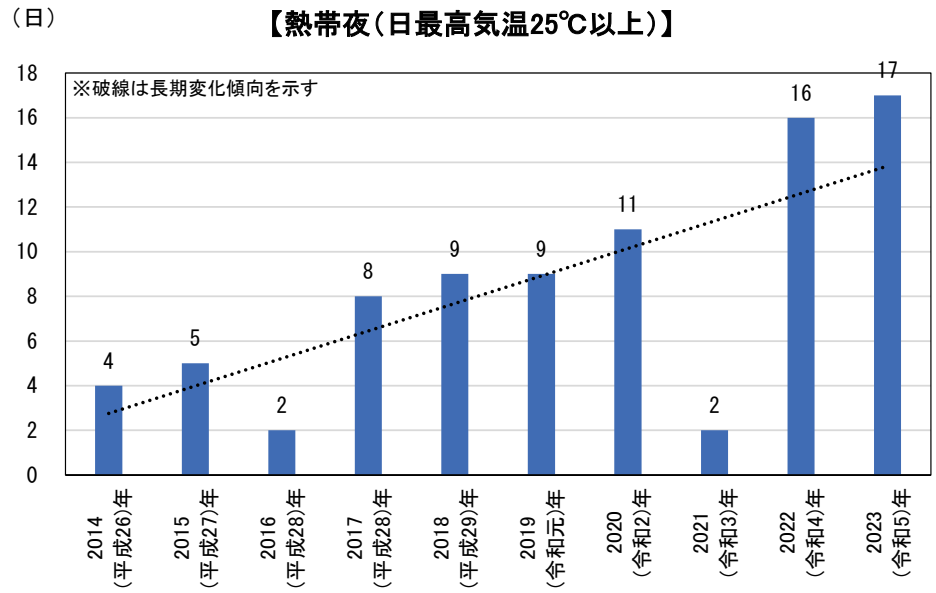
また、2023(令和5)年の猛暑日(日最高気温35℃以上)と熱帯夜(夜間の最低気温25℃以上)の日数をみると、それぞれ40日、17日と過去10年で最も多くなっており、特に熱帯夜については年によりばらつきがあるものの、増加傾向にあります。

「日本の気候変動2020」に基づく地域の観測・予測情報リーフレット(京都府の気候変動)によると、京都府においても猛暑日や熱帯夜の日数は、1990年代以降増加しており、今後追加の対策を行わないと、猛暑日日数は約35日増加、熱帯夜日数については約56日増加する予測※となっています。

※21世紀末(2076~2095年の平均)の予測を20世紀末(1980~1999年の平均)と比較した場合







【綾部市周辺の真夏日・猛暑日・熱帯夜日数の推移】

資料：気象庁提供「過去の気象データ」の福知山地域気象観測所の解析結果をもとに作成

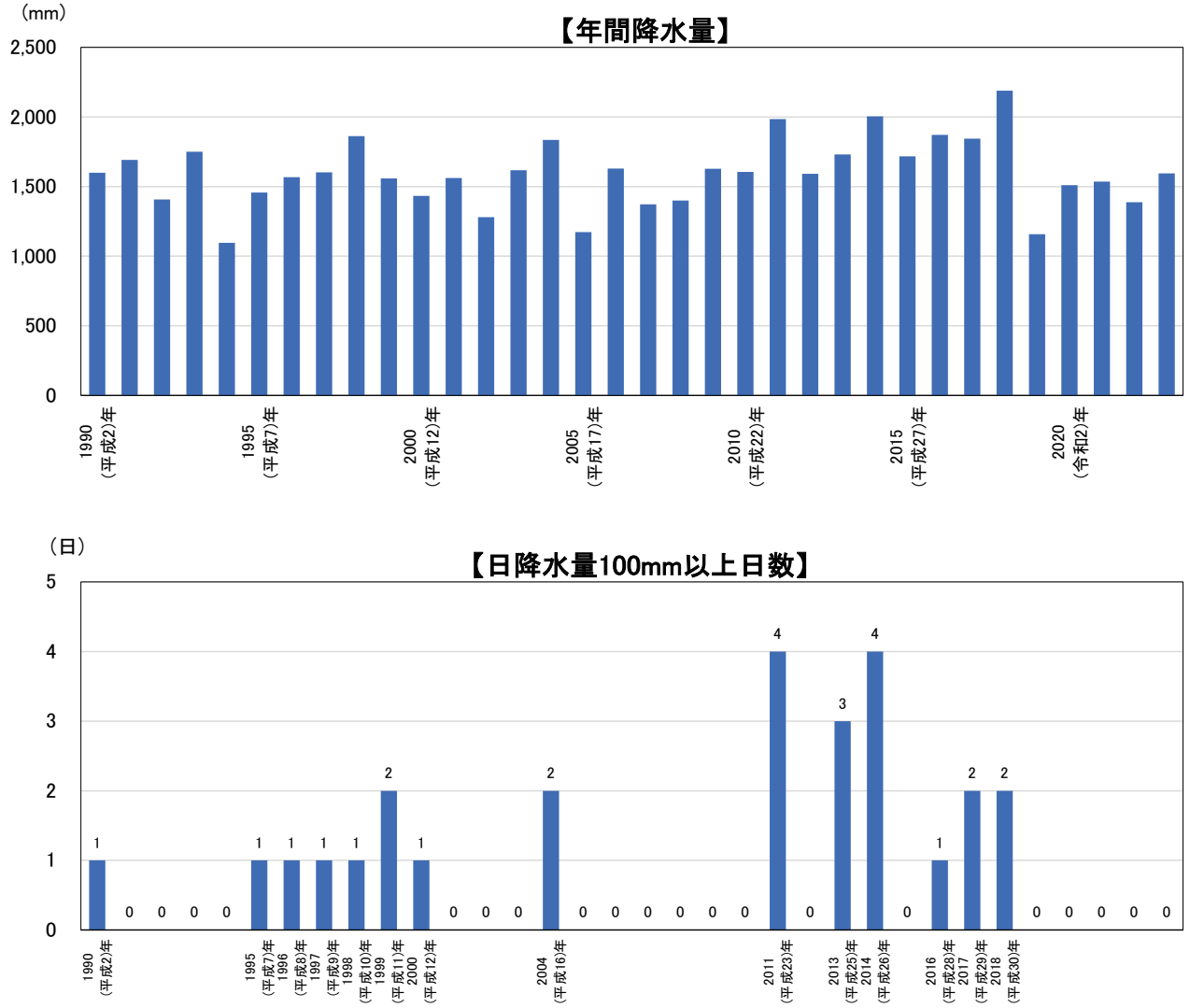
③ 降水量

綾部観測所（令和3年以降は綾部山家観測所）における、2023（令和5）年の年間降水量は、1,594mmとなっています。経年変化をみると、年降水量は年によりばらつきがあり、1,096mmから2,189mmの間で推移しており、短期的な変動を繰り返しています。また、日降水量100mm以上の日数は2011（平成23）年以降、3日以上の年が見られます。

「日本の気候変動2020」に基づく地域の観測・予測情報リーフレット（京都府の気候変動）によると、京都府を含む近畿地方において短時間に降る非常に激しい雨（1時間降水量50mm以上）の回数は、増加傾向となっています。

今後追加の対策を行わないと、非常に激しい雨の回数は約2.4倍に増加する一方で雨が降らない無降水日日数も約12日増加する予測※となっています。

※21世紀末（2076～2095年の平均）の予測を20世紀末（1980～1999年の平均）と比較した場合



【年間降水量及び日降水量100mm以上日数の推移】

資料：気象庁提供「過去の気象データ」の綾部観測所（令和3年以降は綾部山家観測所）の解析結果をもとに作成

④ 台風・豪雨災害の経過

近年、総雨量が300mm、1時間当たりの雨量が40mmを超えるような台風や豪雨などによる災害が頻発しています。

綾部市では、2017（平成29）年の台風21号において、古和木で総雨量523mmを記録しており、2018（平成30）年の西日本豪雨では、人的被害が発生しています。

【台風・豪雨災害の経過】

年	災害	気象状況 ※時間最大雨量（mm/h）、累加雨量（mm）	被災状況等
2004 （平成16）年	台風第23号 （10月19～21日）	364mm（古和木）	道路崩壊・冠水、住宅等の全壊・一部損壊・浸水、農業施設等への被害
2013 （平成25）年	台風第18号 （９月15～16日）	41mm/h・436mm（古和木）	大雨による道路・河川崩落・崩土、堤防損壊、住宅等の一部破損・浸水、停電、農業施設・農作物等への被害
2014 （平成26）年	大雨 （８月16～17日） （９月６～７日）	54mm/h・358mm（小貝・8月） 88mm/h・222mm（味方・9月）	道路崩壊・崖崩れ・冠水、住宅全壊・一部破損・浸水、私市円山古墳（国史跡）の墳丘斜面一部崩壊、農業施設・農作物等への被害
2017 （平成29）年	台風第21号 （10月22～23日）	49mm/h・523mm（古和木）	住宅等の半壊・一部破損や浸水、砂防堰堤崩落、農業施設等への被害
2018 （平成30）年	西日本豪雨 （７月５～７日）	429mm（物部） 420mm（篠田） 61mm/h・408mm（小貝）	人的被害、住宅等の全壊・半壊・一部破損・浸水、河川の越水・堤防決壊、土砂崩れ、農業施設等への被害
2023 （令和５）年	台風第７号 （８月14～16日）	78mm/h・356mm（於与岐） 64mm/h・325mm（古和木） 61mm/h・301mm（篠田）	住宅損壊や浸水、道路冠水、農業施設等への被害

資料：災害の記録（京都府）、綾部市資料

（2）気候変動による影響

国や京都府の気候変動による影響評価結果を踏まえ、本市において懸念される主な気候変動の影響について以下のとおり整理しました。

【主な気候変動の影響(1/2)】

※京都府地球温暖化対策推進計画に記載の国の気候変動影響評価と本計画の優先度から本市への影響が懸念されるものを整理した。

影響度高：○、影響度低：△、該当なし：－

分野	大項目	小項目	京都府	綾部市	備考
農業・林業・水産業	農業	水稲	○	○	
		野菜等	△	△	
		果樹	○	○	茶への影響が懸念される
		麦、大豆、飼料作物等	△	△	
		畜産	○	○	
		病害虫・雑草等	○	○	
		農業生産基盤	○	○	
		食料需給	△	△	
	林業	木材生産（人工林等）	○	○	
		特用林産物（きのこ類等）	△	△	
	水産業	回遊性魚介類（魚類等の生態）	△	△	
		増養殖業	○	○	
		沿岸域・内水面漁場環境等	○	○	内水面漁業への影響が懸念される
水環境・水資源	水環境	湖沼・ダム湖	△	－	本市に湖沼はないため
		河川	△	△	
		沿岸域及び閉鎖性海域	△	－	本市に沿岸域はないため
	水資源	水供給（地表水）	○	○	
		水供給（地下水）	△	△	
		水需要	△	△	
自然生態系	陸域生態系	高山帯・亜高山帯	△	－	本市に高山帯はないため
		自然林・二次林	○	○	
		里地・里山生態系	△	△	
		人工林	○	○	
		野生鳥獣による影響	○	○	
		物質収支	△	△	
	淡水生態系	湖沼	△	－	本市に湖沼はないため
		河川	△	△	
		湿原	△	－	本市に湿原はないため
	沿岸生態系	亜熱帯	△	－	本市に沿岸はないため
		温帯・亜寒帯	○	－	
	海洋生態系		△	－	本市は海洋に面していないため
	その他	生物季節	△	△	
		分布・個体群の変動（在来、外来）	○	○	
	生態系ｻｰﾋﾞｽ		△	△	
自然災害・沿岸域	河川	洪水	○	○	
		内水	○	○	
	沿岸	海面上昇	△	－	本市に海域はないため
		高潮・高波	○	－	
		海岸浸食	△	－	
	山地	土砂流・地すべり等	○	○	
	その他	強風等	○	○	
健康	冬期の温暖化	冬季死亡率	△	△	
	暑熱	死亡リスク等	○	○	
		熱中症等	○	○	
	感染症	水系・食品媒介性感染症	△	△	
		節足動物媒介感染症	○	○	
		その他の感染症	△	△	
	その他	温暖化と大気汚染の複合影響	△	△	
		脆弱性が高い集団への影響	○	○	対象：高齢者・小児・基礎疾患者等
		その他健康影響	△	△	

【主な気候変動の影響(2/2)】

※京都府地球温暖化対策推進計画に記載の国の気候変動影響評価と本計画の優先度から本市への影響が懸念されるものを整理した。

影響度高:○、影響度低:△、該当なし:－

分野	大項目	小項目	京都府	綾部市	備考
産業・経済活動	製造業		△	△	
	エネルギー	エネルギー需給	○	○	
	商業		△	△	
	金融・保険		△	△	
	観光業	レジャー	○	○	
	建設業		○	○	
	医療		△	△	
	その他	海外影響	△	△	
		その他	△	△	
国民生活・都市生活	都市ｲﾝﾌﾗ、ﾗｲﾌﾗｲﾝ等	水道、交通等	○	○	
	文化・歴史などを感じる暮らし	生物季節、伝統行事・地場産業等	○	○	
	その他	暑熱による生活への影響等	○	○	

6 自然共生社会に関すること

(1)生物多様性

本市にはコウノトリやシャガ・ミツマタ群生地、ヒメザゼンソウなどをはじめとする多様な動植物が生息・生育しており、また東部地域は京都丹波高原国定公園に指定され、特色ある地域資源のひとつとなっています。一方、農林水産業の担い手の高齢化・減少やライフスタイルの変化などによって森林や農地をはじめ、自然に対する働きかけの縮小が進んでいます。自然の荒廃が進むことで人の手によって維持されていた環境に依存する種の減少や、イノシシ・シカなどの個体数増加による農作物被害など人の暮らしや生物多様性に影響を与えています。このため、有害鳥獣の捕獲や侵入防止柵の設置による駆除と防除の両面から被害の防止対策を進めています。

外来生物への対応としては、特定外来生物による環境や生態系に与える影響などについて啓発・広報を行っています。

(2)花と緑

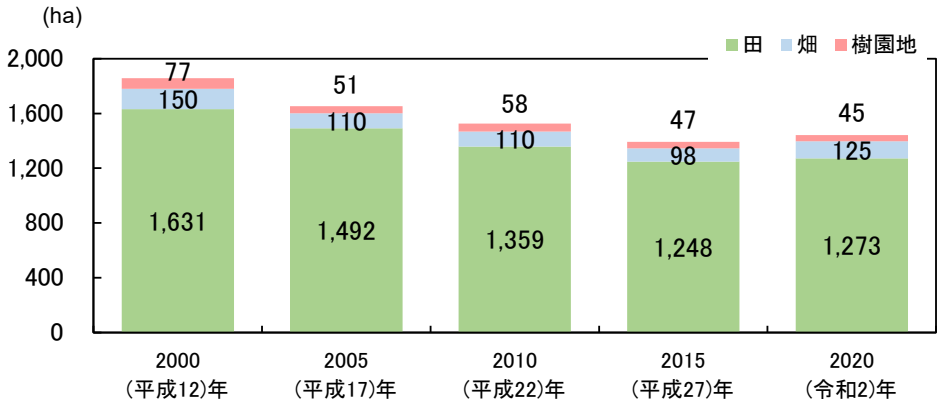
2021(令和3)年度における綾部市の都市公園面積は636,478m^{2}で、市民一人当たり19.8m^{2}となっています。

本市では、公園施設長寿命化計画に基づき、公園の遊具を更新するとともに、通常の公園管理については、市民との協働による管理を進めています。このほか、まちなかの花や緑を増やすため、市民団体などが行う緑化イベント等を支援するとともに、立地企業による緑化も促進しています。

(3)里山景観

経営耕地面積は、田が最も多くなっていますが、2020（令和2）年は1,273ha で、2000（平成12）年の1,631ha と比べて21.9%減少しています。なお、2015（平成27）年からは約2%増加しています。

豊かな自然に囲まれた本市の地域特性を生かし、定住希望者を支援する「あやべ定住サポート総合窓口」を設置しており、2008（平成20）年度から2022（令和4）年度までに、合計350世帯805人の定住実績があります。さらにミツマタとシャガの群生地をはじめ、水源の里の取組等を通じて里山の景観保全や観光への活用が進められています。



【経営耕地面積の推移】

資料：あやべ統計書

(4)生活環境

市内の一般環境大気測定局（綾部測定局）における二酸化窒素（NO_2）、浮遊粒子状物質（SPM）等の大気汚染物質濃度の測定結果は、いずれも環境基準を達成し、良好な状態を維持しています。しかし、光化学オキシダント（OX）については、良好な状況になりつつあるものの、大陸から流れ込む汚染物質などの影響により環境基準を超過する日が発生しています。

綾部市を流れる主要河川である由良川、上林川、八田川、犀川、伊佐津川はいずれも水質環境基準のA類型となっており、これら主要河川の水質は、環境基準をほぼ達成しています。

綾部市クリーンセンターでは、2002（平成14）年11月から可燃ごみを固形燃料にして処理しています。

資料5　アンケート調査概要

1　アンケート調査の概要

綾部市エネルギー環境基本計画の策定に当たり、本市における課題を洗い出すとともに、今後の気候変動・地球温暖化に係る施策の基礎資料とするために市民及び事業者を対象としたアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の概要は以下のとおりですが、図表に示されている割合は、四捨五入の関係で合計が100%にならないことがあります。

【アンケート調査の実施状況】

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th colspan="2">市民</th><th colspan="2">事業者</th></tr>
<tr><td colspan="2">調査対象</td><td colspan="2">市内に住む16歳以上の市民</td><td colspan="2">市内の事業所</td></tr>
<tr><td colspan="2">調査時期</td><td colspan="4">2023（令和5）年7月5日～7月28日</td></tr>
<tr><td colspan="2">発送数</td><td colspan="2">1,000通</td><td colspan="2">100通</td></tr>
<tr><td rowspan="2">回収数</td><td>紙</td><td>259通</td><td rowspan="2">335通</td><td>44通</td><td rowspan="2">57通</td></tr>
<tr><td>Web</td><td>76通</td><td>13通</td></tr>
<tr><td colspan="2">回答率</td><td colspan="2">33.5%</td><td colspan="2">57.0%</td></tr>
</table>

2　市民アンケート調査結果概要

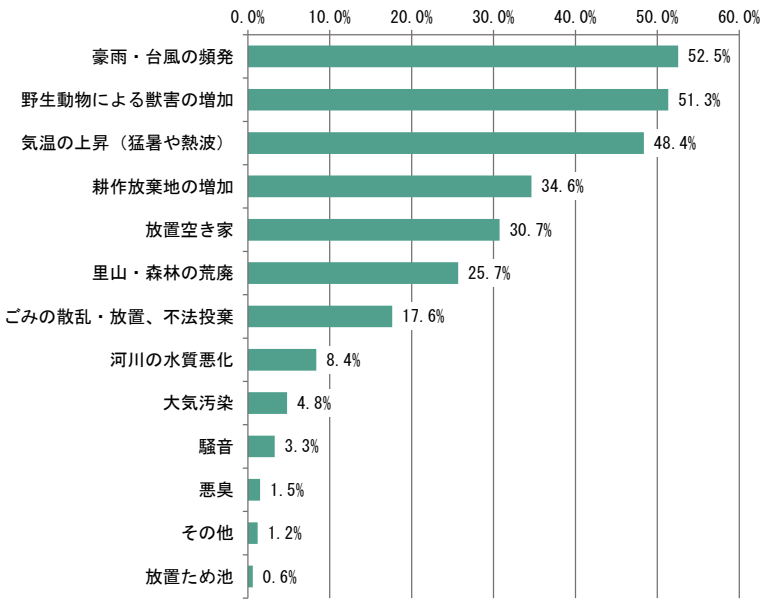
(1)回答者について

回答者は、「70歳以上」が最も多く26.0%となっています。また、住宅の形態については、「一戸建て（持ち家）」が87.2%を占めています。

最も多く利用する移動手段については、「自動車」が84.5%を占めています。

(2)各分野の環境問題について

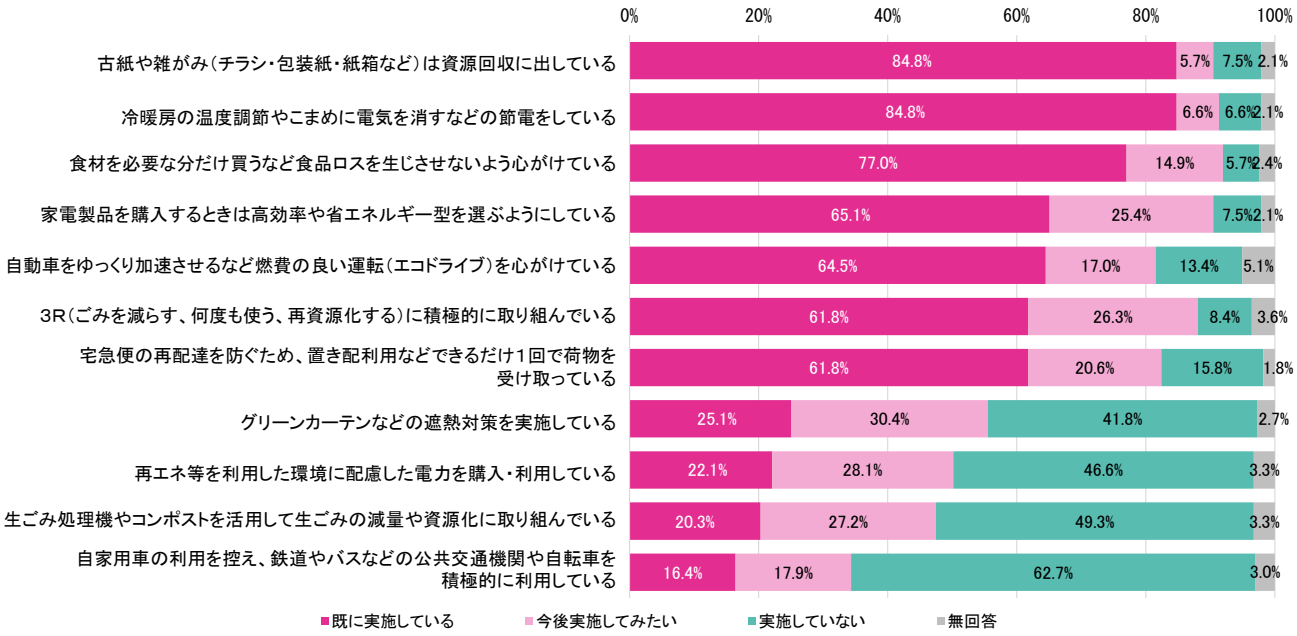
綾部市の環境の現状について不安に思うものについては、「豪雨・台風の頻発」が52.5%と最も高く、次いで「野生動物による獣害の増加」が51.3%、「気温の上昇(猛暑や熱波)」が48.4%となっています。



(3)地球温暖化対策等に関する取組や意識について

地球温暖化対策等に関する取組について、「古紙や雑がみ(チラシ・包装紙・紙箱など)は資源回収に出している」や「冷暖房の温度調節やこまめに電気を消すなどの節電をしている」、「食材を必要な分だけ買うなど食品ロスを生じさせないよう心がけている」など、リサイクルや食品ロス対策、節電に関する取組は多くの回答者が実践しています。

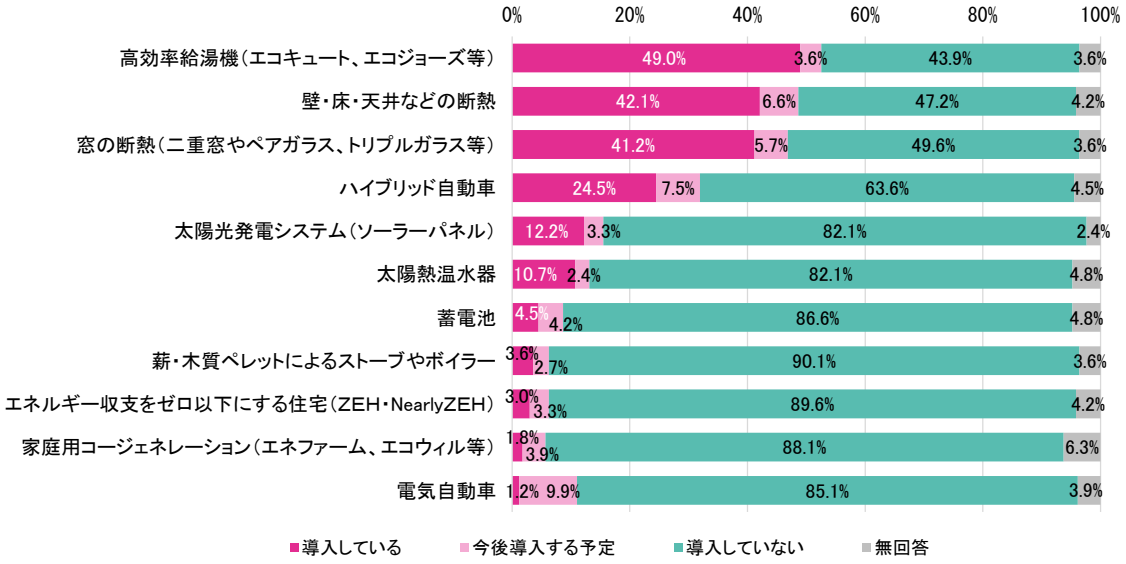
一方、「自家用車の利用を控え、鉄道やバスなどの公共交通機関や自転車を積極的に利用している」や「生ごみ処理機やコンポストを活用して生ごみの減量や資源化に取り組んでいる」、「再エネ等を利用した環境に配慮した電力を購入・利用している」など移動に関することや生ごみの処理、再エネの利用に関する取組を実施している回答者は少ない状況です。



(4)環境に配慮した設備等の導入状況について

環境に配慮した設備等について、「高効率給湯機（エコキュート、エコジョーズ等）」や「壁・床・天井などの断熱」、「窓の断熱（二重窓やペアガラス、トリプルガラス等）」の導入は他の設備に比べて高い状況です。

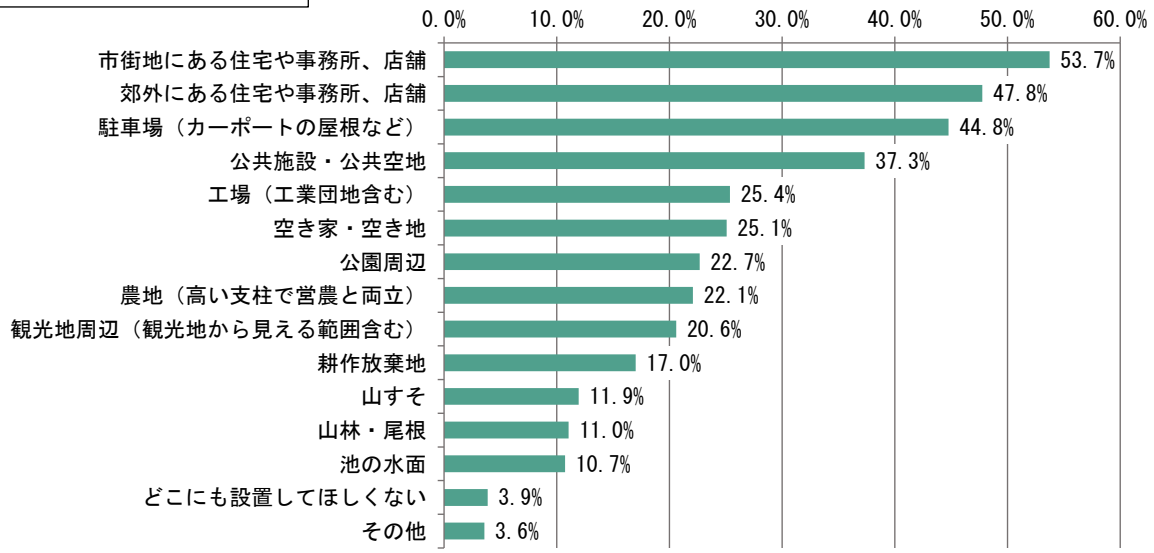
一方、比較的コストが割高の設備や住宅の状況により導入が制限されるものや最新の機器については、「導入している」の割合が低い状況となっていますが、「今後導入する予定」のあるものについて、「電気自動車」と「ハイブリッド自動車」の割合が比較的高くなっています。



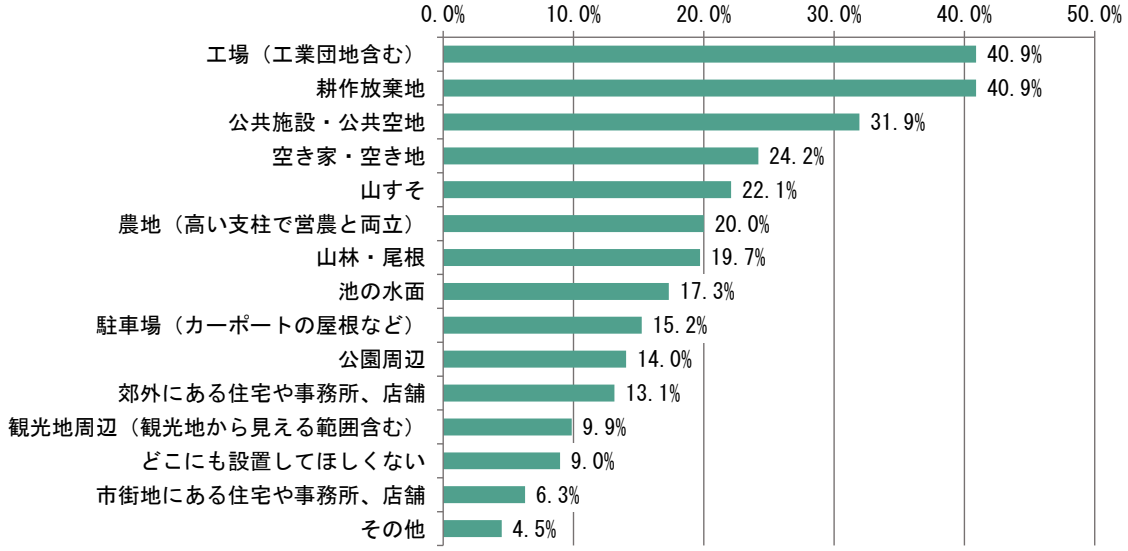
(5)再生可能エネルギーについて、設置されてもよいと思う場所

小規模な太陽光発電設備（屋根の上等）について、設置されてもよいと思う場所としては「市街地にある住宅や事務所、店舗」が53.7%、大規模な太陽光発電設備（メガソーラー等）については「工場（工業団地含む）」と「耕作放棄地」が40.9%、大規模な風力発電設備については「山林・尾根」が22.7%と最も高くなっています。

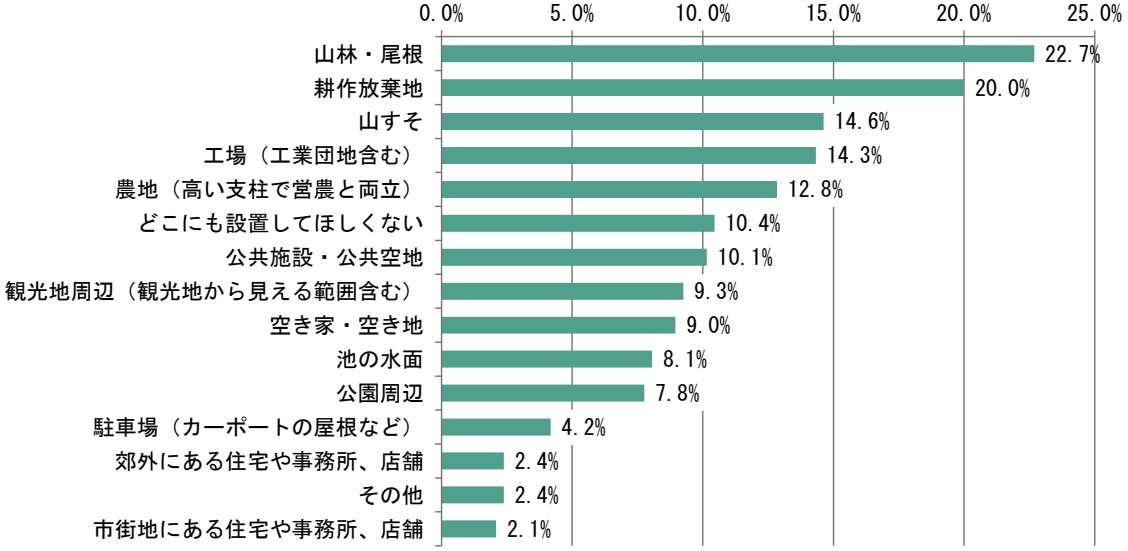
小規模な太陽光発電設備



大規模な太陽光発電設備

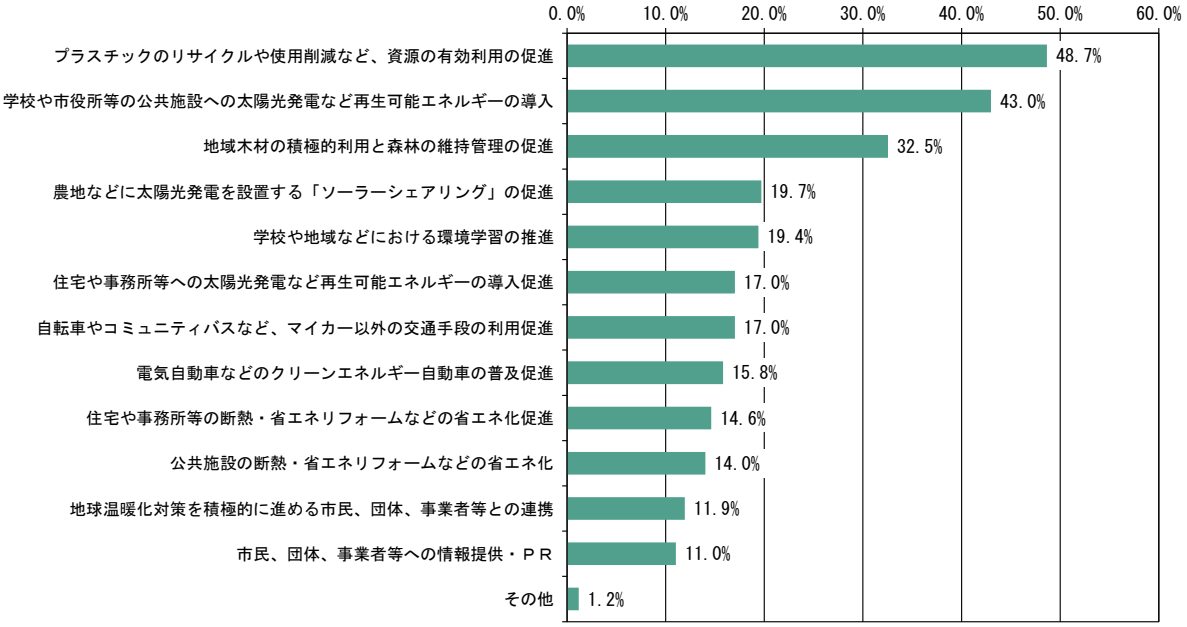


大規模な風力発電設備



(6)地球温暖化対策について、市が重点的に進めるべきだと思う施策

地球温暖化対策について、市が重点的に進めるべきだと思う施策の上位3つとしては、「プラスチックのリサイクルや使用削減など、資源の有効利用の促進」が48.7%と最も高く、次いで「学校や市役所等の公共施設への太陽光発電など再生可能エネルギーの導入」が43.0%、「地域木材の積極的利用と森林の維持管理の促進」が32.5%となっています。

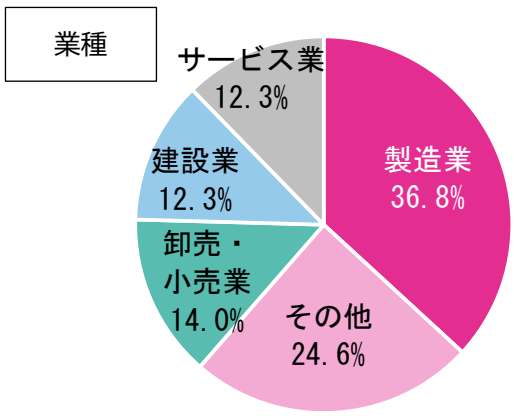


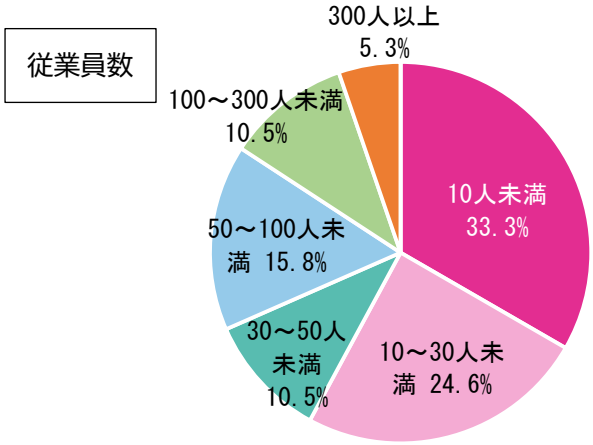
3 事業者アンケート調査結果概要

(1)回答者について

回答した事業所は「製造業」が36.8%と最も高くなっています。また、従業員数については「10人未満」が33.3%と最も高く、次いで「10～30人未満」が24.6%となっています。

特に重点を置いて対策を行っている環境問題については、「電気・ガス等の使用による温室効果ガスの排出抑制・削減」が42.1%と最も高く、次いで「廃棄物の発生抑制・削減」が38.6%となっています。

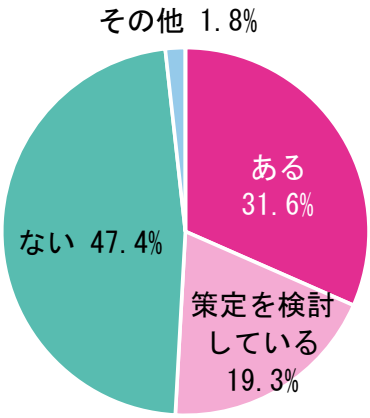




(2)地球温暖化問題に関する目標や取組方針などの設定状況

事業所として地球温暖化問題に関する目標や取組方針などを設定しているかについて、47.4%の事業所が「ない」と回答していますが、「ある」の31.6%と「策定を検討している」の19.3%を合わせると半分以上となっています。

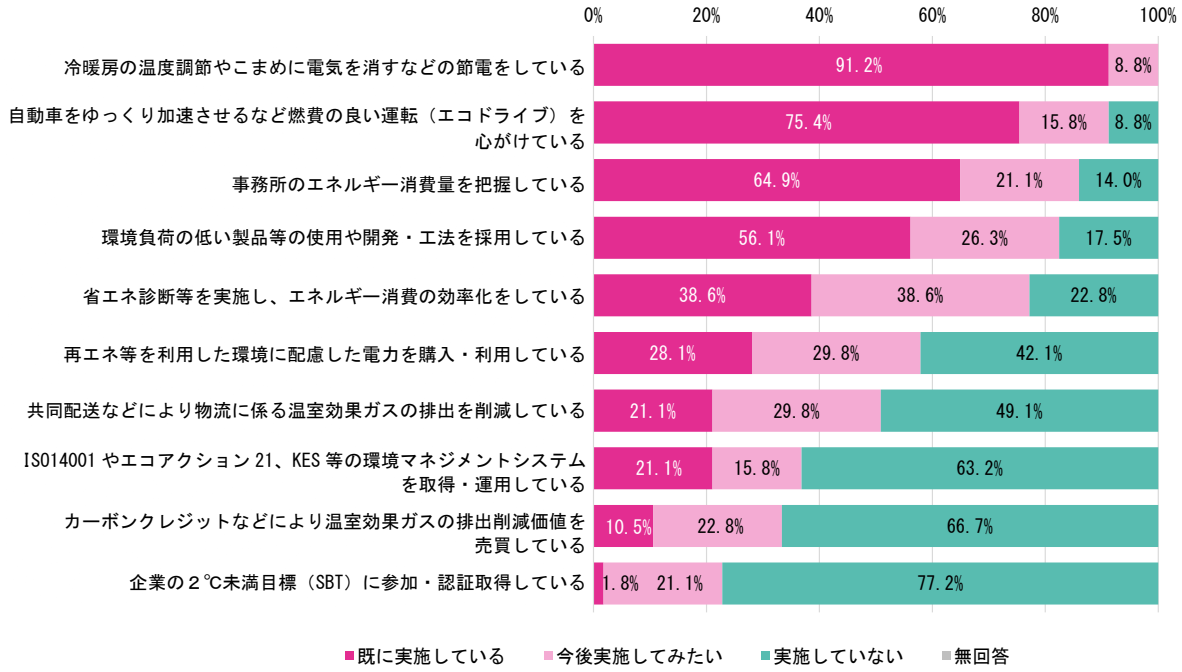
「ある」と回答した事業所の目標や取組方針としては、電気や水道などのエネルギーやCO_2の削減目標、エネルギー管理標準、省エネ行動などが挙げられています。



(3)地球温暖化対策等に関する取組や意識について

地球温暖化対策等に関する取組について、「冷暖房の温度調節やこまめに電気を消すなどの節電をしている」や「自動車をゆっくり加速させるなど燃費の良い運転(エコドライブ)を心がけている」、「事務所のエネルギー消費量を把握している」など、日常的に取り組めるものは多くの事業所が実施しています。

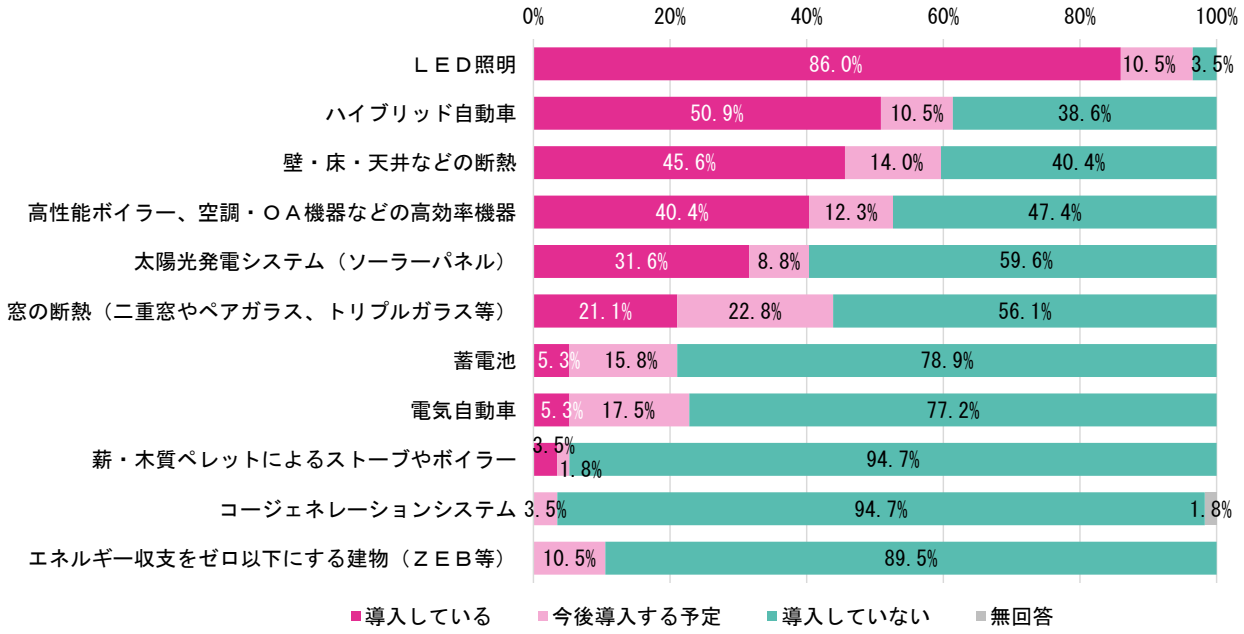
一方、「企業の2℃未満目標(SBT:Science Based Targets)に参加・認証取得している」や「カーボンクレジットなどにより温室効果ガスの排出削減価値を売買している」、「ISO14001やエコアクション21、KES等の環境マネジメントシステムを取得・運用している」などゼロカーボンを実現するための先進的な取組やエネルギー管理に取り組んでいる事業所は少ない状況です。



(4)環境に配慮した設備等の導入状況について

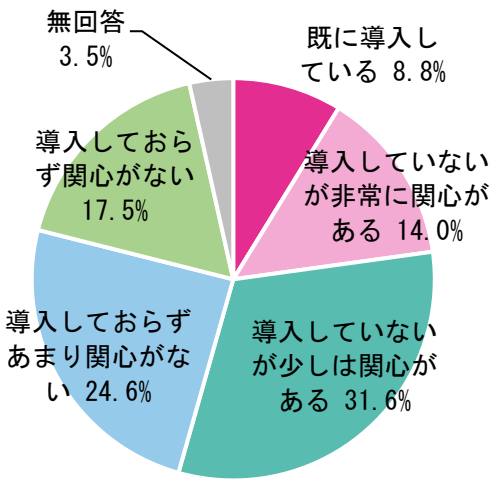
環境に配慮した設備等について、「LED照明」や「ハイブリッド自動車」、「壁・床・天井などの断熱」は多くの事業所が導入しています。

一方、比較的コストが割高の設備や事業所の状況により導入が制限されるものについては、「導入している」の割合が低い状況となっていますが、「今後導入する予定」のあるものについて「窓の断熱」や「電気自動車」、「蓄電池」と回答する事業所の割合が比較的高くなっています。



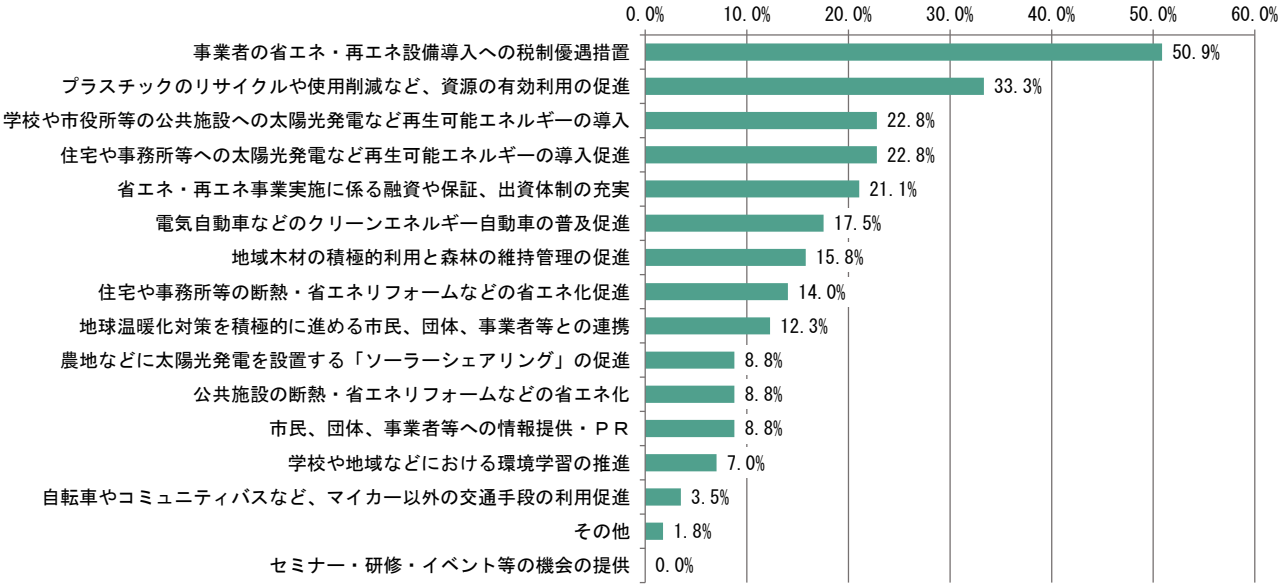
(5)PPAによる太陽光発電設備を導入する方法(仕組み)への関心について

PPAによる太陽光発電設備を導入する方法（仕組み）についての関心・興味については、「既に導入している事業所」と「導入していないが関心がある事業所」を合わせると半数を超えています。



(6)地球温暖化対策について、市が重点的に進めるべきだと思う施策

地球温暖化対策について、市が重点的に進めるべきだと思う施策としては、「事業者の省エネ・再エネ設備導入への税制優遇措置」が50.9%と最も高く、次いで「プラスチックのリサイクルや使用削減など、資源の有効利用の促進」が33.3%となっています。

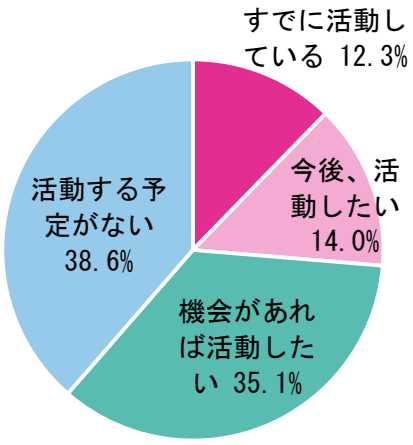


(7)他の団体等と連携した活動について

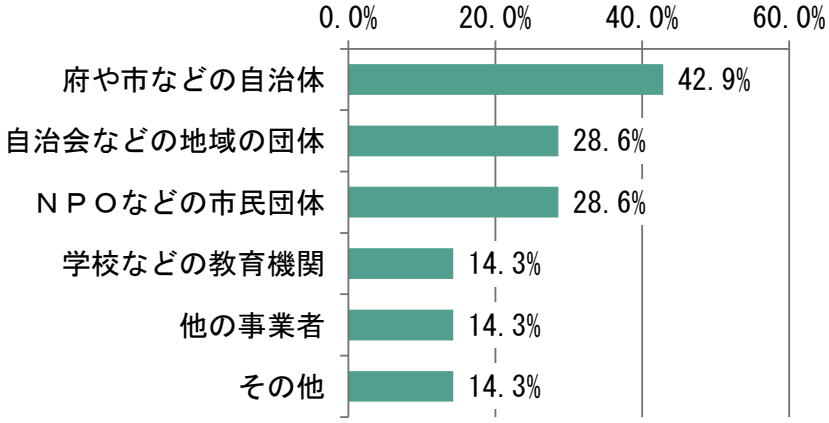
他の団体等と連携した環境保全活動の実施状況について、「すでに活動している」、「活動したい」と回答している事業所を合わせると61.4%となっています。「すでに活動している」と答えた事業所が連携している団体は、「府や市などの自治体」が42.9%と最も高く、次いで「自治会などの地域の団体」や「NPOなどの市民団体」が28.6%となっています。

具体的な活動内容としては、環境美化活動や食品ロス削減、森林整備などとなっています。

活動の実施状況



連携している団体等



資料6　ワークショップ概要

1　開催概要

参加者に国や京都府、本市の状況を知っていただくとともに、幅広く意見を収集し、それらを計画策定等の参考にするため、脱炭素化を実現するうえで重要となる省エネや再生可能エネルギーをテーマにした講演会やワークショップを行いました。開催概要は以下のとおりです。

開催状況	**<市民ワークショップ>** ※綾部市自治会連合会、綾部商工会議所青年部、綾部市環境審議会及び一般公募 9月22日（金）10:00～12:20　参加者16名 13:00～15:20　参加者19名 **<綾部高等学校・綾部市環境市民会議ワークショップ>** 10月13日（金）13:30～15:00　参加者18名
講演会の内容	**<講演タイトル>**気候の危機と脱炭素社会の実現に向けて **<講　演　者>**京都府地球温暖化防止活動推進センター 副センター長　田浦　健朗氏 **<講 演 内 容>** ・気候の危機 ・世界と国内の気候変動対策 ・脱炭素の地域づくり ・地域の対策・活動、今後に向けて
ワークショップの内容	**<市民ワークショップ>** ・はじめに（ワークショップの目的と市の現状について） ・テーマ1　再エネの導入・利活用を進めるためのアイデア ・テーマ2　再エネ（太陽光・風力）を設置されてもよいエリアについて **<綾部高等学校・綾部市環境市民会議ワークショップ>** ・はじめに（ワークショップの目的と市の現状について） ・テーマ1　家での省エネ行動について ・テーマ2　ゼロカーボンを実現するために自分たちにできること

2 市民ワークショップ

(1)再エネの導入・利活用を進めるためのアイデア

◆問題・課題となっていること

・太陽光発電等設備導入・廃棄の費用が高い。

・再エネに関する情報や理解が不足している。

・住宅が古く太陽光発電設備に対応できない。

・健康への懸念(風力発電の騒音など)。

・景観が悪化する。

・人手不足、意識が低い。

・設置に興味がない。

グループで意見を出し合う

◆再エネの導入・利活用に向けて自分たちにできること

・設置費用や導入効果、補助などに関する情報を共有する(行政から市民・事業者に向けて周知、市民はその情報の収集)。

・イメージアップ・メリットをPRする。

・集落内の空家や空き地を再エネ導入場所として活用する(防災用)。

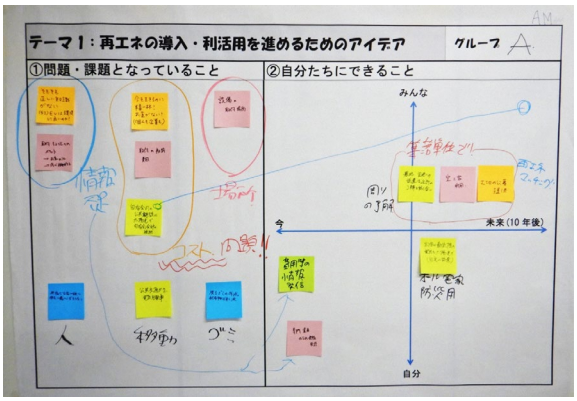
・再エネを設置してもよい土地所有者と再エネを設置したい人とのマッチングが可能な体制(空家のマッチングHPみたいなものを想定)を構築する。

・ライフスタイルを見直す(使用電力量の見える化、LED化など)。

・0円ソーラーを活用する。

・再エネ設備の技術開発を進める。

・まちのLED化、電気の地産地消を進める。



出し合った意見を整理

自分たちにできることを発表し合い、共有

(2)再エネ(太陽光・風力)を設置されてもよいエリアについて

◆各再エネを設置されてもよいエリア

・小型太陽光

公共施設・公共空地、市街地、駐車場等(防災用)

・大型太陽光

耕作放棄地、工業団地、公共施設・公共空地

・風力発電

山林・尾根、適した場所がない。

◆その他(再エネ導入時に留意すること)

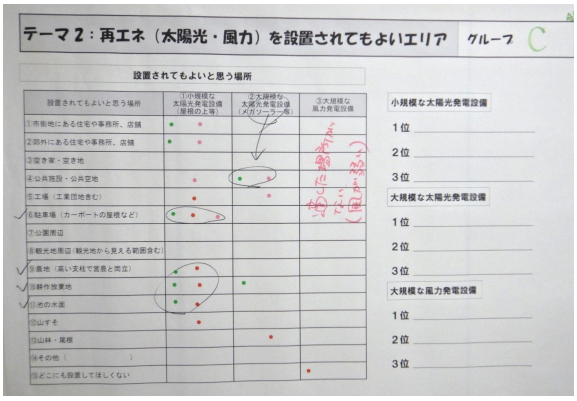
・コウノトリの生息・飛来地は避ける。

・人が集まる場所(公共施設、観光拠点等)への導入がよい。

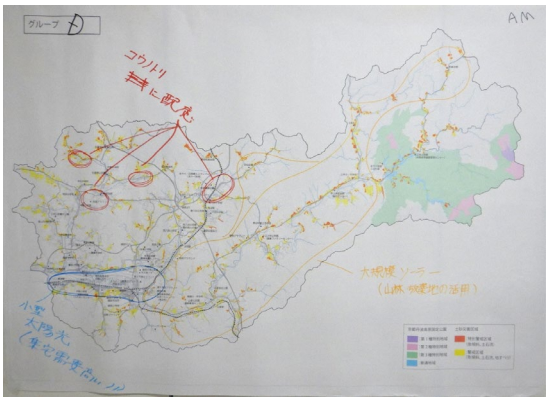
・木質バイオマス(木材)の活用や植樹も重要。

再エネを設置してもよいエリアについて議論

再エネ設置可能エリアの検討経過について説明



意見を一覧で整理



地図にも記載して整理

3　綾部高等学校・綾部市環境市民会議ワークショップ

(1)家での省エネ行動について

世代間で交流しながら意見を出し合う

◆省エネ行動の取組状況

・節電・節水に関する行動は取り組んでいる人が多い。

・電子レンジの活用や生ごみの堆肥化に関する行動は取り組んでいる人が少ない。

◆みんなで考える省エネ対策

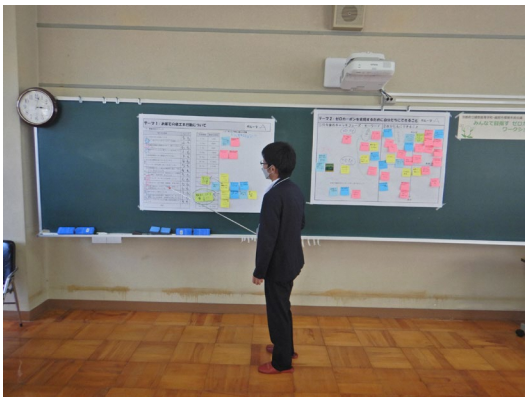
・3Rの徹底など資源の有効活用を進める。

・節電・節水などエネルギーの節約を進める。

・パークアンドライドや車の利用頻度を減らすなど、自動車の利用に関する取組を強化する。

・徒歩や自転車、公共交通機関の利用を進める。

日常で実施できる省エネ行動を検討



グループごとに意見を発表

(2)ゼロカーボンを実現するために自分たちにできること

◆2030年に向けたキャッチフレーズ・キーワードづくり

・自然やまちづくりに関するキーワードが多くなっています。

<キーワード例>

美しい自然、空気がおいしい、コウノトリ、環境先進都市、災害の少ないまち、若者に魅力のあるまち、人と動物が共に生きる など

意見を付せんに記載して整理

◆未来の綾部市のイメージを実現するため自分たちにできること

・3Rを徹底する。

・省エネを徹底する。

・再エネを導入する。

・自転車を使う。また、長距離移動には公共交通機関を使う。

・自然(森・草木)を保全する。

・地域の施設やイベントを活用して啓発を行う。

・リーダーなど人材を育成する。

たくさんの意見が出てきました

グループの意見を上手にまとめて説明していただきました

資料7　国・府の基準などで配慮を要する区域の詳細

計画本編（P27～28）で示した国・府の基準などで配慮を要する区域について、詳細資料として区分別のエリアを示します。

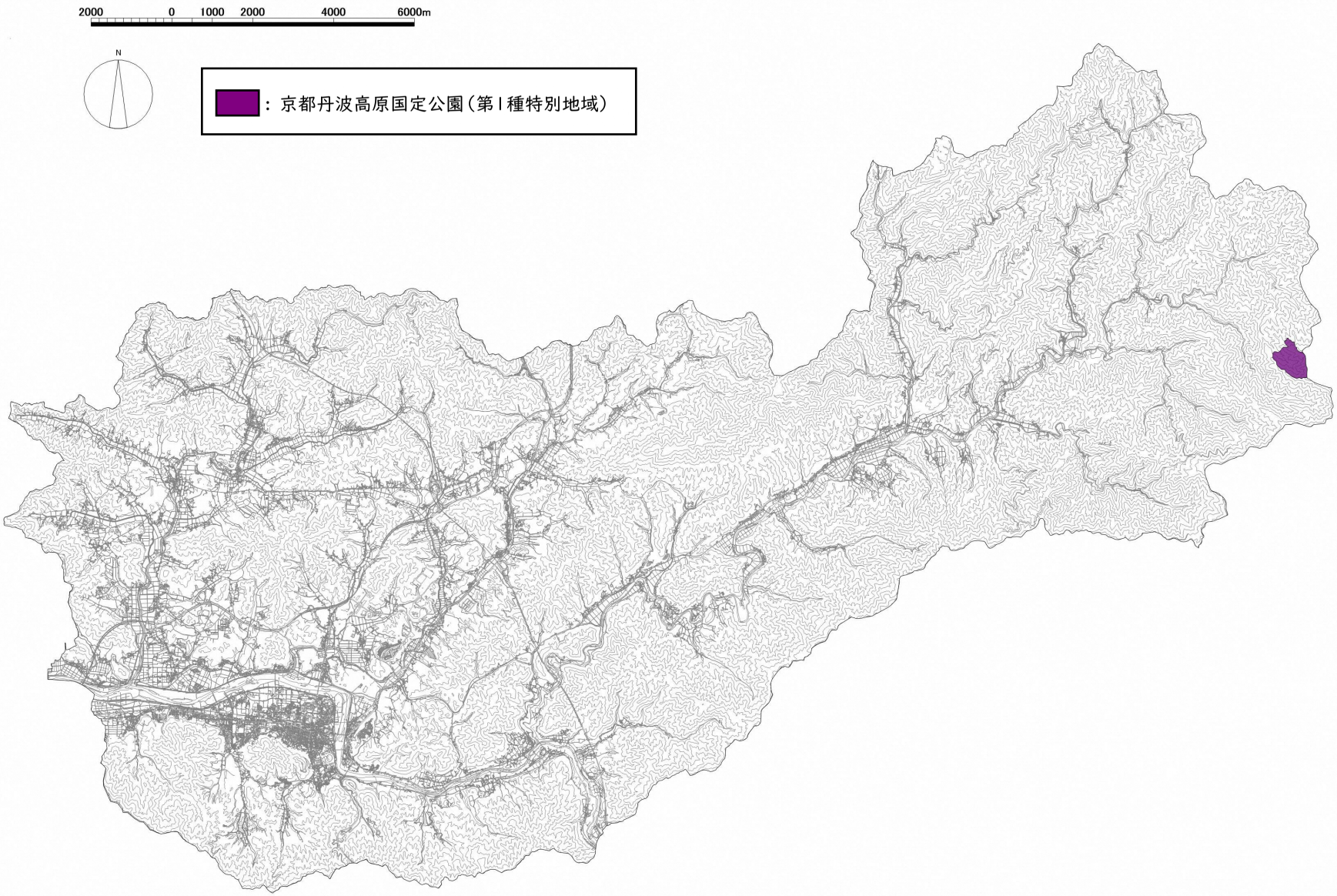
【区域の詳細(1/2)】

区分	本市における具体的なエリア名称		マップ名
① 国の促進区域設定に係る基準で「促進区域から除外すべき区域」に該当するエリア	森　林	・京都丹波高原国定公園（第1種特別地域）	区域①
② 国・京都府の促進区域設定に係る基準で「促進区域に含めることが適切でないと認められる区域」に該当するエリア	防　災	・河川区域	区域②
	動植物	・鳥獣保護区（京都府指定）	
	森　林	・保安林 ・京都丹波高原国定公園（第2種特別地域、第3種特別地域）	
③ 国・京都府の促進区域設定に係る基準や安全性・自然環境保全等の観点から市が独自に定める「促進区域に含めることが適切でないと認められる区域」	防　災	・急傾斜地崩壊危険区域 ・土砂災害特別警戒区域 ・土砂災害警戒区域 ・地すべり防止区域 ・砂防指定地 ・盛土・切土（※）	区域③-①
		・河川保全区域 ・洪水浸水想定区域	区域③-②

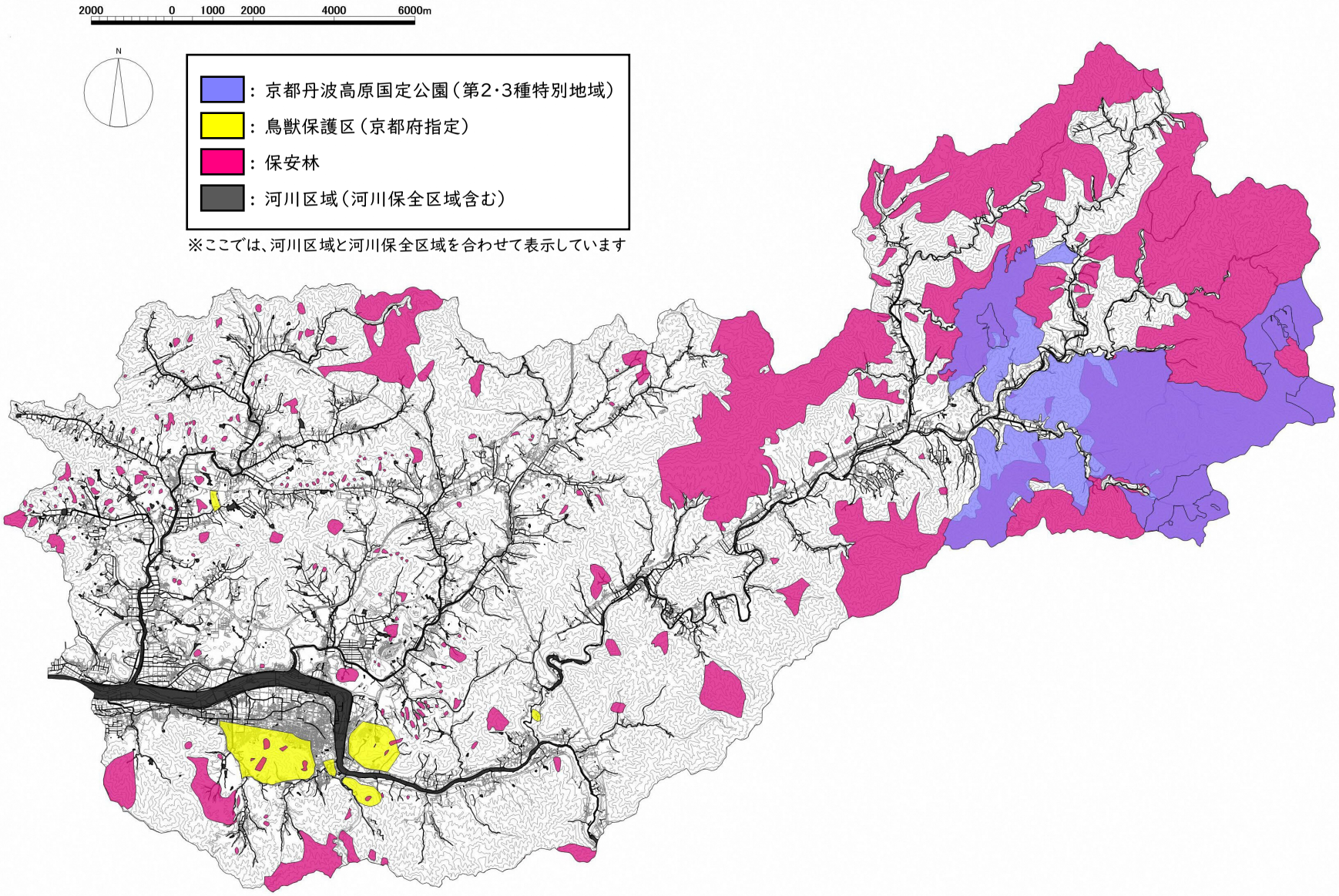
【区域の詳細(2/2)】

<table>
<tr><th>区分</th><th colspan="2">本市における具体的なエリア名称</th><th>マップ名</th></tr>
<tr><td rowspan="4">(つづき)
③ 国・京都府の促進区域設定に係る基準や安全性・自然環境保全等の観点から市が独自に定める「促進区域に含めることが適切でないと認められる区域」</td><td>動植物</td><td>・コウノトリ飛来地
・国内希少野生動植物種一覧(※)
・レッドリスト(環境省・府)(※)
・指定希少野生生物(※)
・特定植物群落(※)
・重要湿地(※)
・植生自然度が高い地域(※)
・長距離自然歩道その他自然歩道(※)</td><td rowspan="2">区域③-③</td></tr>
<tr><td>森　林</td><td>・京都丹波高原国定公園(普通地域)
・巨樹・巨木林(※)
・重要里地里山(※)</td></tr>
<tr><td>文化財</td><td>・京都府景観資産登録地区
・周知の埋蔵文化財包蔵地
・史跡、名勝及び天然記念物
・文化財環境保全地区</td><td>区域③-④</td></tr>
<tr><td>森　林</td><td>・国有林
・地域森林計画対象民有林</td><td>区域③-⑤</td></tr>
</table>

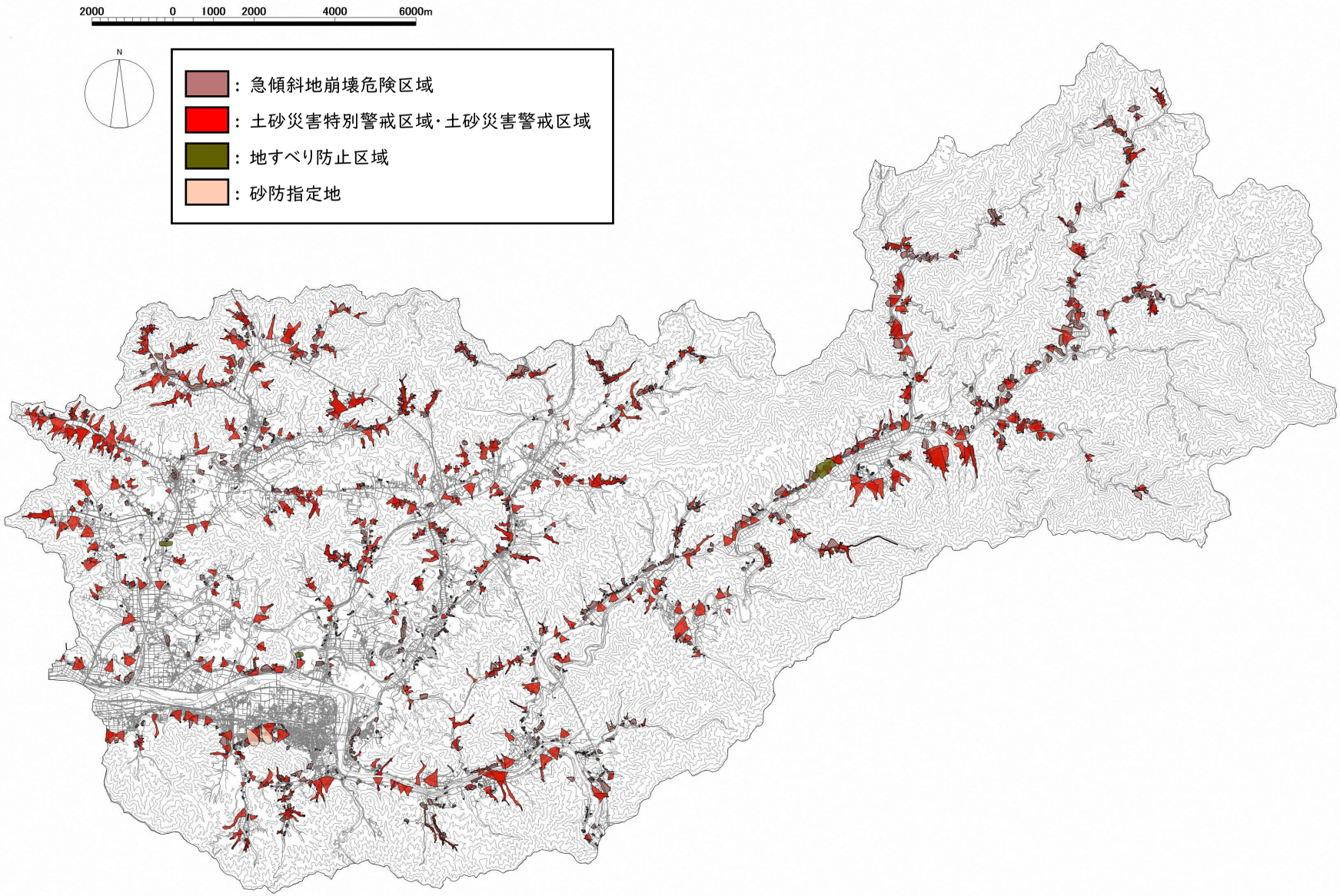
※(※)のついているエリアについてはマップに含まれていない



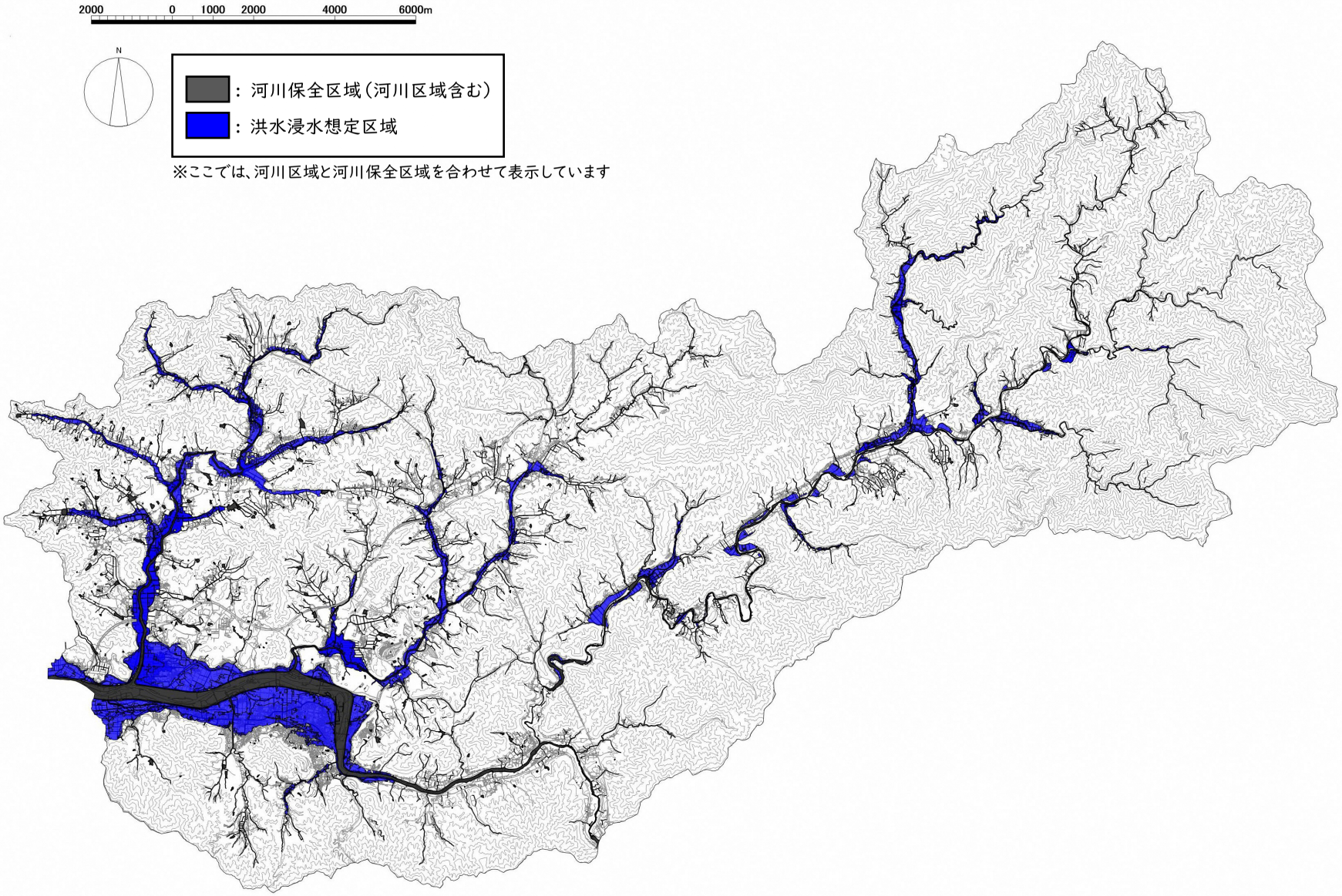
【区域①】


2000
0
1000
2000
4000
6000m
N
：京都丹波高原国定公園（第2･3種特別地域）
：鳥獣保護区（京都府指定）
：保安林
：河川区域（河川保全区域含む）
※ここでは、河川区域と河川保全区域を合わせて表示しています

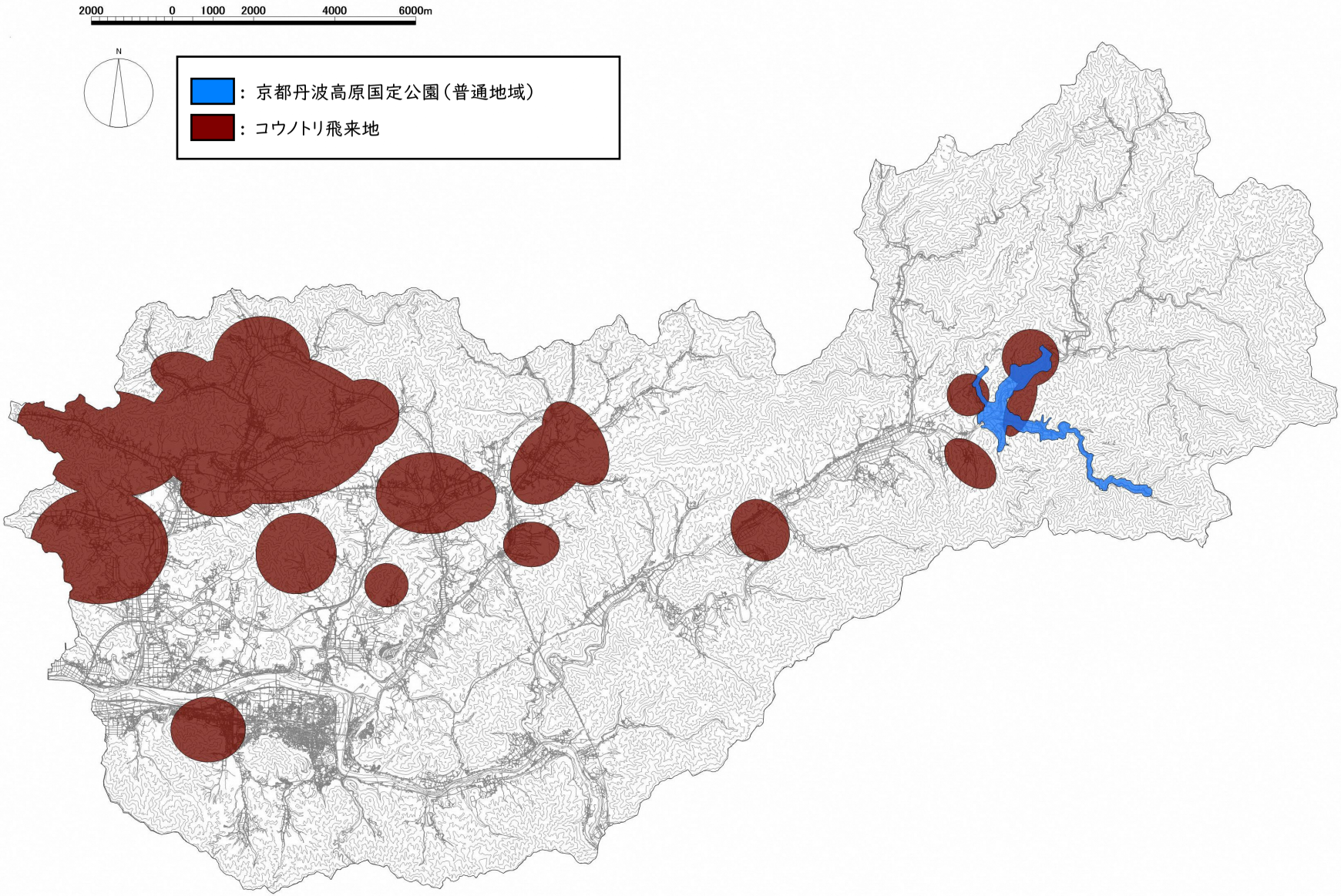
【区域②】


2000
0
1000
2000
4000
6000m
N
：急傾斜地崩壊危険区域
：土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域
：地すべり防止区域
：砂防指定地

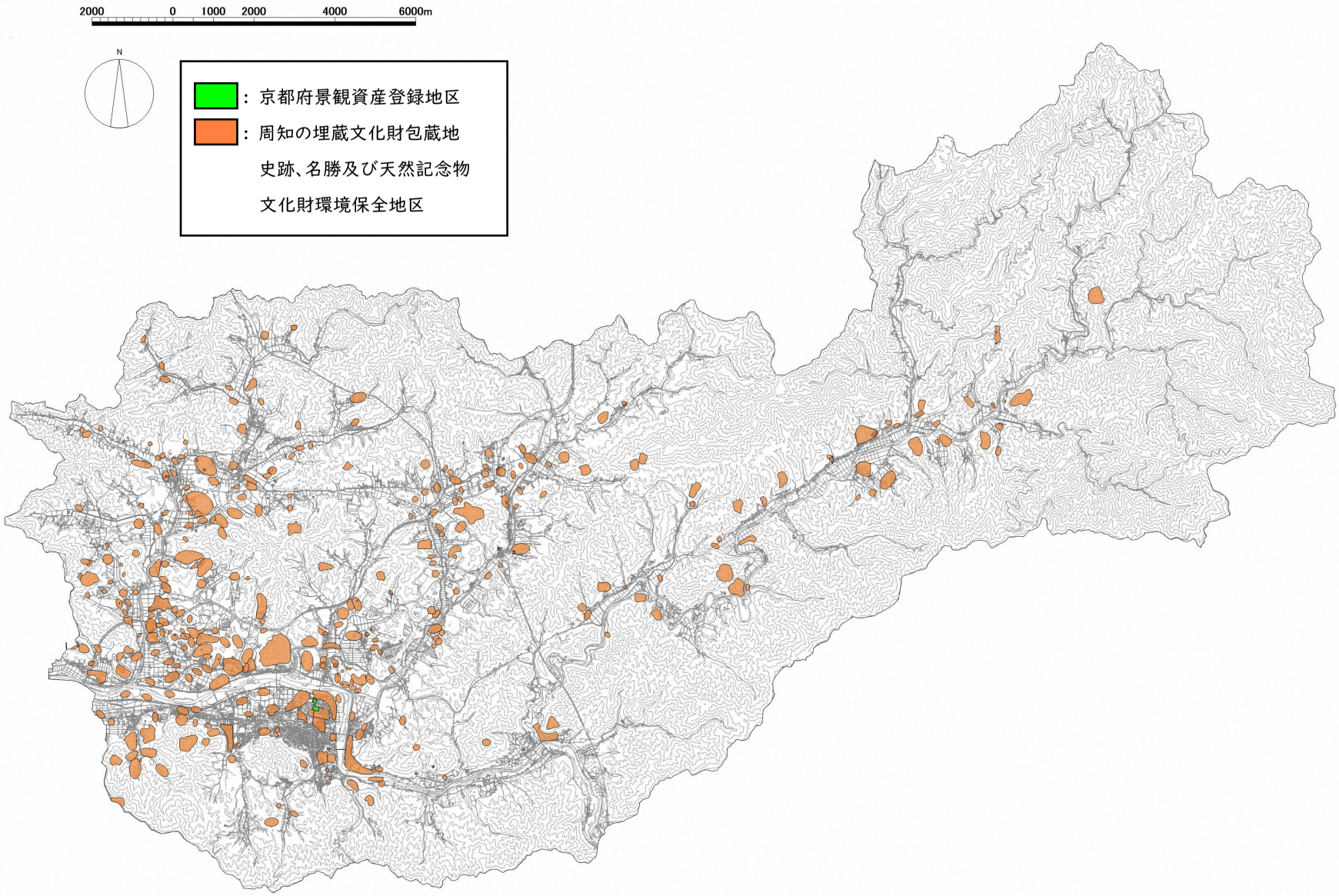
【区域③-①】


2000
0
1000
2000
4000
6000m
N
：河川保全区域（河川区域含む）
：洪水浸水想定区域
※ここでは、河川区域と河川保全区域を合わせて表示しています

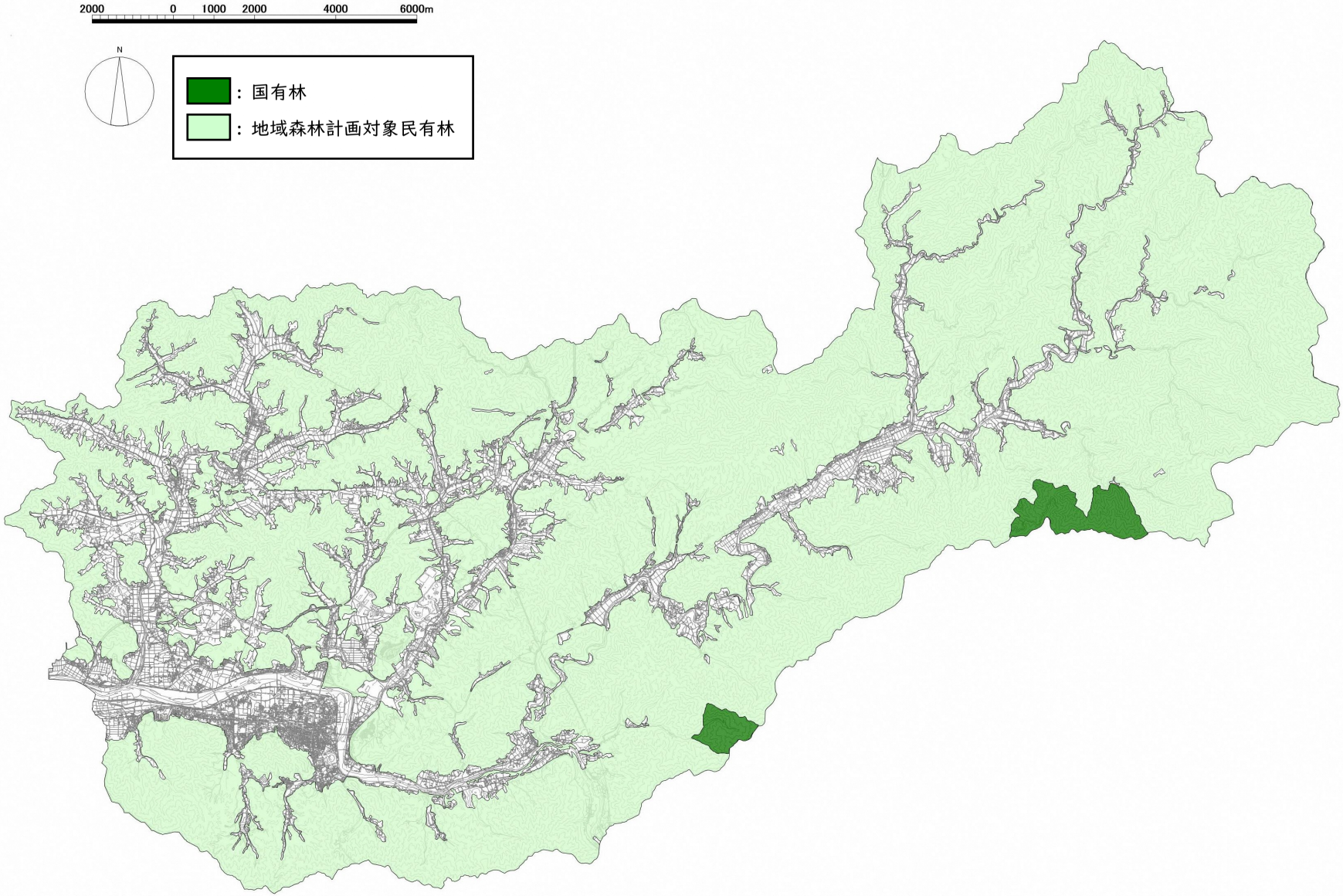
【区域③-②】



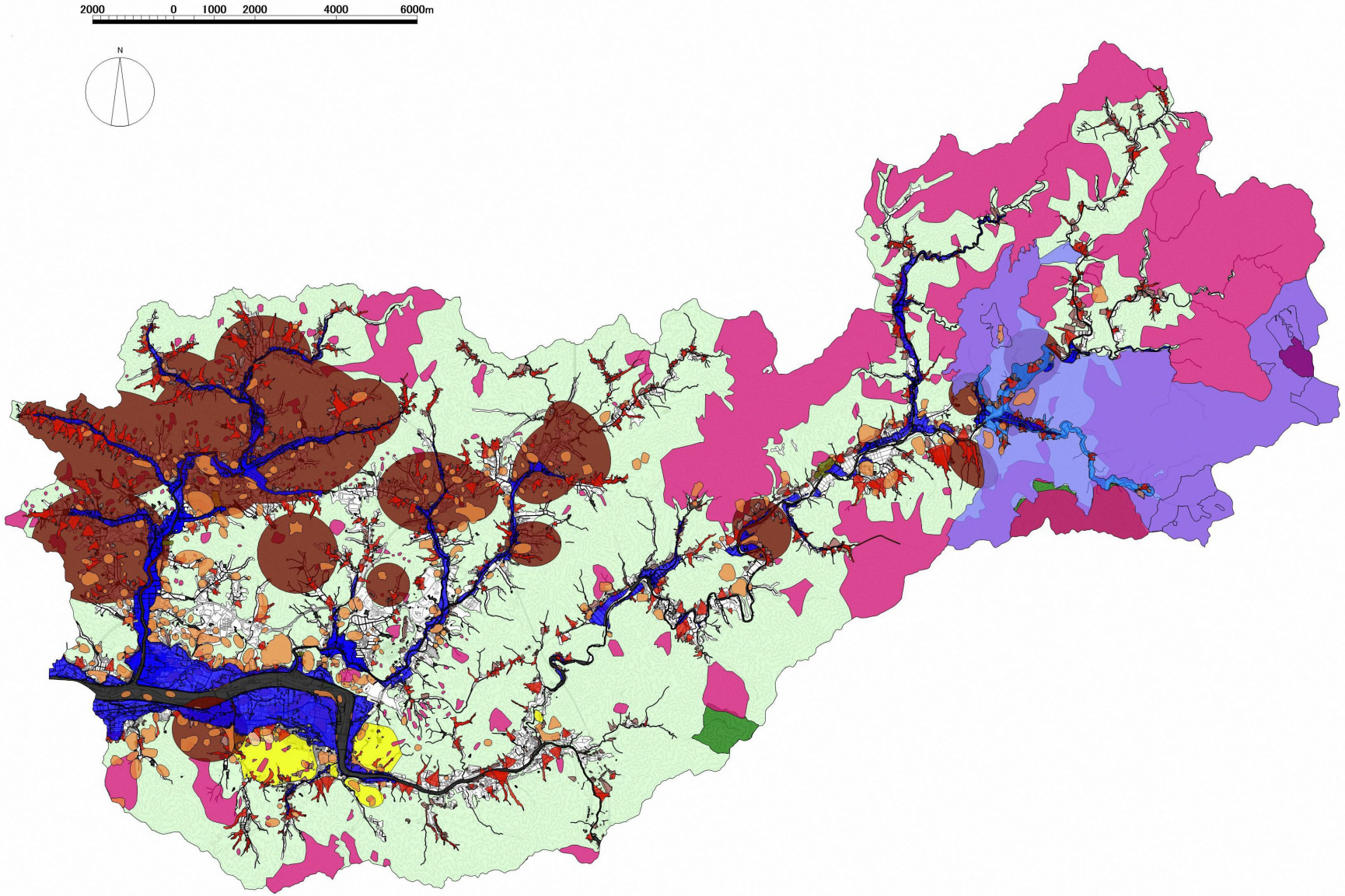
【区域③-③】


2000
0
1000
2000
4000
6000m
N
：京都府景観資産登録地区
：周知の埋蔵文化財包蔵地
史跡、名勝及び天然記念物
文化財環境保全地区

【区域③-④】



【区域③-⑤】



【国・府の基準などで配慮を要する区域】

資料8　計画策定の経過

1　会議等開催状況

本計画の策定に当たっては、市民及び事業者を対象としたアンケート調査、市民や学生、団体などを対象としたワークショップ、パブリックコメントなどの実施により、広く意見の募集に努め、計画策定の参考にするとともに、ゼロカーボン推進会議、環境審議会及び市議会での議論を経て策定しました。

【会議等の開催状況(1/2)】

年 月 日	会 議 等	主な検討内容等
2023(令和5)年 7月26日(水)	綾部市環境審議会	●第3次綾部市環境基本計画の令和4年度進捗状況について ●綾部市脱炭素ロードマップについて ●あやべゼロカーボン表彰について
7月　5日(水)～ 7月28日(金)	市民・事業者向けアンケート調査の実施	●「綾部市エネルギー環境基本計画策定に向けたアンケート」 回答:市民335、事業所57
9月22日(金)	講演会・ワークショップ(市民)	●第1回　みんなで目指すゼロカーボンシティ綾部 <講演タイトル> 気候の危機と脱炭素社会の実現に向けて <講演者> 京都府地球温暖化防止活動推進センター 副センター長　田浦　健朗氏 <ワークショップテーマ> ・テーマ1　再エネの導入・利活用を進めるためのアイデア ・テーマ2　再エネ(太陽光・風力)を設置されてもよいエリアについて <参加者> ・1回目16名、2回目19名
9月29日(金)	綾部市環境審議会	●あやべゼロカーボン表彰について
10月13日(金)	ワークショップ(綾部高等学校・綾部市環境市民会議)	●第2回　みんなで目指すゼロカーボンシティ綾部 <ワークショップテーマ> ・テーマ1　家での省エネ行動について ・テーマ2　ゼロカーボンを実現するために自分たちにできること <参加者> ・18名
10月19日(木)	綾部市ゼロカーボン推進会議幹事会	●綾部市エネルギー環境基本計画の策定に係る施策及び再エネ促進区域の設定について

【会議等の開催状況(2/2)】

年 月 日	会 議 等	主な検討内容等
11月 7日(火)	綾部市ゼロカーボン推進会議	●綾部市エネルギー環境基本計画の策定に係る施策及び再エネ促進区域の設定について
12月 1日(金)	綾部市環境審議会・諮問	●「綾部市エネルギー環境基本計画(案)」諮問
12月15日(金)	綾部市議会	●綾部市エネルギー環境基本計画(案)について
12月26日(火)	綾部市環境審議会	●綾部市エネルギー環境基本計画(案)の修正について
12月15日(金)～2024(令和6)年1月 5日(金)	パブリックコメント	●綾部市エネルギー環境基本計画策定に係る意見募集 提出件数:11 件(2名)
1月15日(月)	綾部市環境審議会・答申	●「綾部市エネルギー環境基本計画(案)」答申
1月26日(金)	綾部市ゼロカーボン推進会議	●綾部市エネルギー環境基本計画(議案)について
3月11日(月)	綾部市議会	●綾部市エネルギー環境基本計画(議案)について
3月22日(金)	綾部市議会・議決	●綾部市エネルギー環境基本計画(議案)の議決

2 綾部市環境審議会委員名簿

（五十音順、敬称略）

氏 名	所 属	備 考
安 積 幸 代	元綾部市リサイクル推進員	
荒 木 敏 文	上林川を守る会 副会長	
市 田 隆 敏	綾部市森林組合 業務課長	
尾 松 朋 子	京都丹の国農業協同組合 企画調整室係長	
髙 倉 正 明	綾部市自治会連合会 会長	
大 力 聡 美	里山ねっと･あやべ 事務局長	
中 村 孝 行	綾部市環境市民会議	会長
西 田 紀 子	綾部市環境市民会議	
林　　多嘉子	京都府地球温暖化防止活動推進員	
福 井 章 子	綾部市環境市民会議	
福 井 圭 介	綾部市環境市民会議 会長	副会長
増 田 典 男	京都府中丹東保健所 技術次長兼環境衛生課長	
幹 田 秀 和	特定非営利活動法人 間伐材研究所 代表理事	
山 﨑 栄 市	綾部商工会議所 専務理事	

（令和6年3月現在）

綾部市エネルギー環境基本計画 資料編

発 行　令和6年3月
編 集　綾部市
〒623-8501 京都府綾部市若竹町8番地の1
TEL：0773-42-3280
FAX：0773-42-4406
https://www.city.ayabe.lg.jp/

令和5年度 資源エネルギー庁 「エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金」事業